

履修の手引き

2026年度



未来を拓く医療人をめざして

北海道千歳リハビリテーション大学

Hokkaido Chitose College of Rehabilitation

目 次

はじめに

1. 北海道千歳リハビリテーション大学の教育目標	1
2-1. 健康科学部の学位授与に関する方針（ディプロマ・ポリシー）	1
2-2. 専攻別の学位授与に関する方針	1
【理学療法学専攻のディプロマ・ポリシー】	
【作業療法学専攻のディプロマ・ポリシー】	
3. 教育課程の編成及び実施の方針（カリキュラム・ポリシー）	2
【理学療法学専攻のカリキュラム・ポリシー】	
【作業療法学専攻のカリキュラム・ポリシー】	
4. 入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）	3

I 授業について

1. 学年および学期	4
2. 授業時間と時間割	4
3. クラス編成	4
4. 単位制	4
5. 単位の授与	5
6. 授業科目	5
7. 休講、補講、集中講義	5
8. 出席確認	5
9. 授業評価アンケート	5
10. 授業の録音、撮影の禁止	5
11. 授業に関するルールとマナーについて	6

II-I. 履修について

2020（令和2）年度～2024（令和6）年度入学者

1. 進級要件	7
2. 卒業要件	8
3. 臨床実習	10
4. 科目一覧	11
5. 教育マップ	15
※ 単位数および授業科目の読み替え表	20

II-II. 履修について

2025（令和7）年度以降入学者

1. 進級要件	22
2. 卒業要件	23
3. 臨床実習	25
4. 科目一覧	26
5. 教育マップ	30

【以下の6. 履修登録～11. 取得資格は、「2020（令和2）年度～2024（令和6）年度入学者」・
「2025（令和7）年度以降入学者」と共通】

6. 履修登録	35
7. 在学年限	35
8. 休学期間	35
9. 卒業認定方法	35
10. 学位の授与	35
11. 取得資格	35

III. 試験について

1. 試験の種類	36
2. 受験資格	36
3. 受験上の注意	37
4. 不正行為が発覚した場合	37
5. 試験における不正行為	37
6. レポート等における不正行為	38

IV. 補習について

1. 目的	39
2. 補習の対象者	39
3. 補習の実施方法	39
4. 補習期間	39
5. 評価及び単位認定	39
6. 補習後の学修支援	39
7. 補習履歴の管理	40

V. 成績評価について

1. 成績評価の方法	41
2. GPA制度	41
3. GPAの対象外	42
4. GPAの算出方法	42
5. GPAの算出例	42
6. 成績の通知	42

はじめに

本学では、教育目標のもと、学位授与に関する方針（ディプロマ・ポリシー）、教育課程の編成及び実施の方針（カリキュラム・ポリシー）並びに入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）を下記のとおり定めています。

皆さんには、人間力を高めつつ障害予防・健康増進などの新しいリハビリテーション医療のあり方に対応できる能力を4年間の課程で身につけるために、どのような方針及び体系のもとでカリキュラムが編成されているかをしっかりと把握してください。

本書は、入学から卒業までの学習を計画的に進めるために必要な情報を掲載しています。

1. 北海道千歳リハビリテーション大学の教育目標

- (1) 科学的な観察力、思考力並びに表現力を身につける
- (2) 他者の痛みの分かる心を持ち、他者の立場になって行動する態度を身につける
- (3) 地域の課題に積極的に関わり、その課題解決に貢献する姿勢を養う
- (4) 自ら問題を解決する能力と生涯にわたって学習を継続する姿勢とを養う

2. 学位授与に関する方針（ディプロマ・ポリシー）

専攻別の学位授与に関する方針

【理学療法学専攻のディプロマ・ポリシー】

健康科学部リハビリテーション学科理学療法学専攻は、所定の期間在学して卒業に必要な単位を修得した者に、学士（理学療法学）の学位を授与します。

(1) 多様性の理解

適切な理学療法を提供するために、対象者やその家族、保健・医療・福祉関係者一人ひとりの背景や価値観の多様性を尊重することができる。

(2) コミュニケーション力

対象者やその家族、保健・医療・福祉関係者の理解に努め、自らの考えを適切に伝えることができる。

(3) 専門知識と技術の活用

理学療法士として必要な専門知識と技術を習得し、安全に実施、活用することができる。

(4) 課題発見・解決能力

現状を分析し、目的や課題を明らかにした上で、科学的根拠と論理的思考をもって解決に向けて柔軟に取り組むことができる。

(5) 能動的に学び続ける力

医学・医療の進歩ならびに理学療法士に求められる社会のニーズの変化に対応するために、自ら積極的に学び自己研鑽を継続することができる。

(6) 地域社会に貢献する姿勢と意欲

地域社会に根ざしたリハビリテーションの実践を通して、地域社会に貢献する理学療法士としての役割を理解することができる。

【作業療法学専攻のディプロマ・ポリシー】

健康科学部リハビリテーション学科作業療法学専攻は、所定の期間在学して卒業に必要な単位を修得した者に、学士（作業療法学）の学位を授与します。

(1) 多様性の理解

作業療法士として関わる対象者やその家族、保健・医療・福祉関係者一人ひとりの背景や価値観を尊重することができる。

(2) コミュニケーション力

対象者やその家族、保健・医療・福祉関係者の多面的な理解に努め、作業療法士としての考えを適切に伝えることができる。

(3) 専門知識と技術の活用

作業療法士として必要な医学的知識、心理学的知識、社会学的知識を基盤として、作業療法の専門知識と技術を活用し、作業療法を実践することができる。

(4) 課題発見・解決能力

対象者と対象者を取り巻く環境の現状を分析し、課題を明らかにした上で、科学的根拠に基づき解決に向けて取り組むことができる。

(5) 能動的に学び続ける力

医学・医療の進歩と作業療法士に求められる社会的ニーズの変化に対応するために、能動的に自己研鑽することができる。

(6) 地域社会に貢献する姿勢と意欲

地域社会におけるリハビリテーションの実践を活かして、作業療法士として地域社会に貢献する意欲をもつことができる。

3. 教育課程の編成及び実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

北海道千歳リハビリテーション大学は、本学の「建学の精神」、および「学位授与に関する方針（ディプロマ・ポリシー）」に基づき、その学習到達目標を達成するために、以下のようなカリキュラムの方針に則り編成します。

【理学療法学専攻のカリキュラムポリシー】

(1) [初年次教育] 高等学校から大学への円滑な移行を図るため、能動的に学び続ける力を身に付けることができるように、導入基礎科目を配置する。

(2) [教養教育] 人間、生命と健康、社会と環境、文化とコミュニケーションに対する理解を深めるために、教養科目を配置する。

(3) [専門科目] 医学の基盤として人体の構造、機能、病態を理解する専門基礎科目と、本学の目指す障害予防リハビリテーションの学問的基盤を習得するため、「健康増進・障

害予防」関連科目を配置する。

- (4) [専門科目] 理学療法の臨床および研究活動に必要な知識、評価と治療の技術、問題解決能力を修得するための専門科目を配置する。
- (5) [専門科目] 講義・実技・演習・ゼミナールの組み合わせから、理学療法士に必要な高度で専門的な内容へ段階的に進めるよう、教養科目・専門基礎科目・専門科目の履修順序を体系的に編成する。
- (6) [教育方法] 主体的な学習を促し、健康の維持・増進、予防も含めた疾病・障害に対する理学療法の統合的な実践力を身につけることができるように、教育課程を編成する。

【作業療法学専攻のカリキュラムポリシー】

- (1) [初年次教育] 高等学校から大学への円滑な移行を図るため、能動的に学び続ける力を身に付けることができるように、導入基礎科目を配置する。
- (2) [教養教育] 人間、生命と健康、社会と環境、文化とコミュニケーションに対する理解を深めるために、教養科目を配置する。
- (3) [専門科目] 医学の基盤として人体の構造、機能、病態を理解する専門基礎科目と、本学の目指す障害予防リハビリテーションの学問的基盤を習得するため、「健康増進・障害予防」関連科目を配置する。
- (4) [専門科目] 作業療法の臨床および研究活動に必要な知識、評価と治療の技術、問題解決能力を修得するための専門科目を配置する。
- (5) [専門科目] 高度で専門的な内容へ段階的に進めるよう、教養科目・専門基礎科目・専門科目の履修順序を講義・演習・実習を組み合わせ体系的に編成する。
- (6) [教育方法] 作業療法に関する知識、技術、問題解決能力、態度に関して、学生の主体的な学習を促すため、各科目に適した講義・演習・実習を編成する。

1. 入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

北海道千歳リハビリテーション大学は「医療専門職教育を通じて真の人間を育成」するために、以下の資質、能力、意欲を持った学生を受入れる。

- (1) 他者の理解に努め、積極的に協働する意欲を持つ人（主体性・多様性・協働性）
- (2) 論理的かつ柔軟な思考で課題解決に向けた取り組みができる人（思考力・判断力・表現力）
- (3) 理学療法学・作業療法学を学ぶための基礎学力を有する人（知識・技能）
- (4) 目標を達成するために継続的に努力することができる人（態度）

I. 授業について

1. 学年および学期

- (1) 学年は、4月1日に始まり、翌年3月31日に終わります。
- (2) 学期は次の2学期です。
- 前期 4月1日から9月30日
- 後期 10月1日から3月31日
- ※ 授業回数確保等のため、変則的に後期の開始が9月中になることがあります。

2. 授業時間と時間割

- (1) 授業時間は、次のとおりです。授業科目によっては別に指定することがあります。

1 講目	9 : 00 ~ 10 : 30
2 講目	10 : 40 ~ 12 : 10
〈昼休み〉	12 : 10 ~ 13 : 00
3 講目	13 : 00 ~ 14 : 30
4 講目	14 : 40 ~ 16 : 10
5 講目	16 : 20 ~ 17 : 50
6 講目	18 : 00 ~ 19 : 30

- (2) 1講90分のうち、60分以上を受講しなければ欠席となります。
- (3) 時間割は、学年別、クラス別に編成されています。
- ※ 授業科目によっては、授業時間に変更される場合があります。この場合は、掲示板でお知らせします。
- ※ 必要に応じて、土曜日に授業を行うこともあります。

3. クラス編成

- (1) 理学療法学専攻は、A組、B組の2クラス（1クラス40名を基本とします）。
- (2) 作業療法学専攻は、1クラス（30名を基本とします）。

4. 単位制

1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して次の基準により単位数を定めています。

講義	15時間をもって1単位とする。 (教育上必要があるときは、30時間の授業をもって1単位とすることができる)
演習	30時間をもって1単位とする。 (教育上必要があるときは、15時間の講義をもって1単位とすることができる)
実習	30時間をもって1単位とする。 (臨床実習の科目については、40時間の実習をもって1単位とする)

5. 単位の授与

授業科目を履修し、その科目の試験に合格した者には、所定の単位を授与します。

6. 授業科目

(1) 授業科目は、教養科目、専門基礎科目および専門科目で構成されています。

教養科目	リハビリテーションの知識と技術とが、現代社会で果たす意味を自覚できるように、必要な基本的知識を学びます。
専門基礎科目	高度な専門知識や技術を学ぶための前提となる両専攻共通の科目を学びます。
専門科目	各専攻に関する高度な理論・演習・臨床実習を系統的に学習し、実践的な手法を学びます。

(2) 各科目は、必修科目、選択必修科目および選択科目で構成されています。

必修科目	卒業までに必ず単位を修得しなければならない科目
選択必修科目	卒業までに決められた科目から決められた単位数を修得しなければならない科目
選択科目	定められた条件内で選択できる科目

7. 休講、補講、集中講義

(1) 都合により授業ができなくなった場合は、休講となります。

(2) 補講は、休講となった授業に行います。

(3) 集中講義は、授業科目によりある一定期間に集中して講義を行います。

※ 上記(1)～(3)のほか、教室変更等のお知らせは、掲示板で行います。

8. 出席確認

すべての授業で毎回出席確認を行います。各授業科目の時間数の3分の2以上を出席しなければ、試験を受けることはできませんので、ご注意ください。(Ⅲ. 試験について2. 受験資格：参照P39)

9. 授業評価アンケート

本学では、教員の教育活動の向上について検討を行うことを目的に、臨床実習およびセミナーを除く科目の最終講義日に授業評価アンケートを実施しています。

これは、授業の質を高めるために行うもので、皆さんの素直な評価をお願いします。

10. 授業の録音、撮影の禁止

本学では、個人情報の保護、プライバシーへの配慮および著作権保護の観点から、授業のすべてについて、録音、撮影は禁止します。ただし、「合理的配慮」等の個別事情については、担当教員に相談してください。

11. 授業に関するルールとマナーについて

本学は、臨床現場で求められる優れた療法士を育成するリハビリテーションに特化した単科大学です。そのため真の医療人として、大学や社会のルール及びマナーを遵守し、セラピストに相応しい態度を身につけ、他者の立場になって行動ができる力を在学中に習得することが求められます。

学生の皆さんひとり一人がルールとマナーを守り、快適な授業環境を作るために、下記について心得て授業に出席してください。

(1) 私語・雑談

私語や授業と関係のない話は、他の学生の迷惑になるので厳禁とします。

(2) 携帯電話・スマートフォン

担当教員の許可なく授業中における携帯電話、スマートフォン、タブレット及びノートパソコン、イヤホン等の装着や利用はできません。カバン等に収納してください。

(3) 飲食

飲食についてはペットボトル等の蓋つき飲料のみ可能とし、それ以外は原則禁止します。また、容器を机上に置かないこと。

(4) 帽子

帽子やサングラスの着用は禁止します。ただし、医学的に必要で許可を得ている場合は除きます。

(5) 入退出

- ① 授業開始時間前までに指定された教室・座席に着席すること。
- ② やむを得ず遅刻をした場合は、原則、出席確認のため、入室後に速やかに担当教員に申し出ること。申し出が無い場合は、「欠席」とする。
- ③ 授業中に無断で退出することはできません。ただし、緊急の場合は担当教員の了解を得た上で退出してください。
- ④ 授業終了の声がかかるまで後片付けや席を立たないでください。

(6) 授業の撮影、録画、録音

特別な理由がある場合を除き、個人情報保護、著作権保護等の観点から、授業中の撮影、録画、録音は禁止です。必要がある場合は、担当教員の許可を得てください。

(7) 挨拶

普段から学内外での生活は、挨拶を励行しましょう。挨拶が大切である理由は下記の通りです。

- ① 常識のある人という評価を得られます。
- ② 「あいさつ」はコミュニケーションの第一歩で、相手との会話のきっかけになり、対人関係や社会生活を円滑にする力があります。
- ③ 相手からの印象がよくなり、人間関係がよくなります。

Ⅱ-I. 履修について **2020（令和2）年度～2024（令和6）年度入学者**

1. 進級要件

学生が進級するためには、次の条件を満たさなければなりません。

- (1) その学年の必修科目、選択必修科目の単位を全て修得すること。
- (2) 理学療法学専攻および作業療法学専攻ごとに規定する単位数を修得していること。

【理学療法学専攻】

要件	1 年 生	2 年 次 へ 進 級 す る た め に 1 年 次 修 了 時 ま で に 修 得 し な け れ ば な ら な い 単 位 数	2 年 生	3 年 次 へ 進 級 す る た め に 2 年 次 修 了 時 ま で に 修 得 し な け れ ば な ら な い 単 位 数	3 年 生	4 年 次 へ 進 級 す る た め に 3 年 次 修 了 時 ま で に 修 得 し な け れ ば な ら な い 単 位 数
単 位 数	教養科目	14単位	教養科目	17単位	教養科目	22単位
	専門基礎科目	20単位	専門基礎科目	42単位	専門基礎科目	43単位
	専門科目	3単位	専門科目	13単位	専門科目	45単位

【作業療法学専攻】

要件	1 年 生	2 年 次 へ 進 級 す る た め に 1 年 次 修 了 時 ま で に 修 得 し な け れ ば な ら な い 単 位 数	2 年 生	3 年 次 へ 進 級 す る た め に 2 年 次 修 了 時 ま で に 修 得 し な け れ ば な ら な い 単 位 数	3 年 生	4 年 次 へ 進 級 す る た め に 3 年 次 修 了 時 ま で に 修 得 し な け れ ば な ら な い 単 位 数
単 位 数	教養科目	14単位	教養科目	17単位	教養科目	22単位
	専門基礎科目	20単位	専門基礎科目	42単位	専門基礎科目	43単位
	専門科目	3単位	専門科目	14単位	専門科目	44単位

2. 卒業要件

学生が卒業するためには、理学療法学専攻および作業療法学専攻ごとに規定する所定の科目を履修し、必要な単位数を修得しなければなりません。

【理学療法学専攻】

- (1) 理学療法学専攻における卒業に必要な単位取得数は、146単位です。
- (2) 最も履修単位が多い1年次の履修可能単位数は、47単位（必修科目34単位、選択科目13単位）であることから、この47単位をもって1年間の履修科目の登録上限とします。

科 目	必修科目	選択科目	合 計
教養科目	17単位	5単位	22単位
専門基礎科目	44単位	1単位	45単位
専門科目	0単位	79単位	79単位
合 計	61単位	85単位	146単位

※ 専門科目の選択科目は、選択必修科目から73単位および選択科目から6単位以上を修得しなければなりません。なお、選択科目の履修は下記により選択してください。

応 用 理 学 療 法	スポーツ傷害理学療法学	3年前期	1単位	6科目 より 6単位 以上 選択
	神経障害理学療法学特論	4年後期	2単位	
	運動器障害理学療法学特論	4年後期	2単位	
	内部障害理学療法学特論	4年後期	2単位	
応 用 リ ハ ビ リ テ ー シ ョ ン	生活行為向上リハビリテーション論	3年前期	2単位	
	国際医療支援論	4年後期	1単位	

【作業療法学専攻】

- (1) 作業療法学専攻における卒業に必要な単位取得数は、142単位です。
- (2) 最も履修単位が多い1年次の履修可能単位数は、48単位（必修科目34単位、選択科目14単位）であることから、この48単位をもって1年間の履修科目の登録上限とします。

科 目	必修科目	選択科目	合 計
教養科目	17単位	5単位	22単位
専門基礎科目	44単位	1単位	45単位
専門科目	0単位	75単位	75単位
合 計	61単位	81単位	142単位

※ 専門科目の選択科目は、選択必修科目から66単位および選択科目から9単位以上を修得しなければなりません。なお、選択科目の履修は下記により選択してください。

作 業 療 法 臨床実習	臨床見学セミナーⅠ（作業療法）	1年前期	1単位	6科目 より 5単位 以上 選択
	臨床見学セミナーⅡ（作業療法）	2年前期	1単位	
	臨床評価学セミナー（作業療法）	3年後期	1単位	
	臨床治療学セミナーⅠ（作業療法）	4年前期	1単位	
	臨床治療学セミナーⅡ（作業療法）	4年前期	1単位	
応 用 リ ハ ビ リ テ ー ション	国際医療支援論	4年後期	1単位	
応 用 作 業 療法	作業療法特別セミナー	4年後期	3単位	6科目 より 4単位 以上 選択
	特別支援教育概論	4年後期	1単位	
	箱づくり法	4年後期	1単位	
	身体・老年期障害作業治療学特論	4年後期	1単位	
	精神障害作業治療学特論	4年後期	1単位	
	発達障害作業治療学特論	4年後期	1単位	

3. 臨床実習

理学療法学専攻および作業療法学専攻の臨床実習は、基礎的な理学療法・作業療法が実施できるレベルを目指し、人を思いやる心や責任感を養うことを目標としています。同時に、観察力や思考力及び表現力を高めることで対象となる方々の有する問題を解決する能力を身につけることを目指します。

【理学療法学専攻】

科 目 名	単位数	時 期	期 間
①臨床見学実習(理学療法)	1単位	1年前期(9月予定)	1週間
②臨床評価学実習(理学療法)	4単位	3年後期(1～2月予定)	4週間
③臨床治療学実習Ⅰ(理学療法)	8単位	4年前期(4～6月予定)	8週間
④臨床治療学実習Ⅱ(理学療法)	8単位	4年前期(7～8月予定)	8週間

※ ②臨床評価学実習(理学療法)の履修条件

専門科目の科目区分「理学療法評価学」のすべての授業科目および臨床見学実習(理学療法)を修得していなければなりません。

※ ③臨床治療学実習Ⅰ(理学療法)および④臨床治療学実習Ⅱ(理学療法)の履修条件

専門科目の科目区分「理学療法治療学」のすべての授業科目および臨床評価学実習(理学療法)を修得していなければなりません。

【作業療法学専攻】

科 目 名	単位数	時 期	期 間
①臨床見学実習Ⅰ(作業療法)	1単位	1年前期(9月予定)	1週間
②臨床見学実習Ⅱ(作業療法)	1単位	2年前期(9月予定)	1週間
③臨床評価学実習(作業療法)	4単位	3年後期(1～2月予定)	4週間
④臨床治療学実習Ⅰ(作業療法)	8単位	4年前期(4～6月予定)	8週間
⑤臨床治療学実習Ⅱ(作業療法)	8単位	4年前期(7～8月予定)	8週間

※ ③臨床評価学実習(作業療法)の履修条件

専門科目の科目区分「作業療法評価学」のすべての授業科目、作業分析学、日常生活活動学(作業療法)、臨床見学実習Ⅰ(作業療法)および臨床見学実習Ⅱ(作業療法)を修得していなければなりません。

※ ④臨床治療学実習Ⅰ(作業療法)および⑤臨床治療学実習Ⅱ(作業療法)の履修条件

専門科目の科目区分「作業療法治療学」のすべての授業科目および臨床評価学実習(作業療法)を修得していなければなりません。

4. 科目一覧

理学療法学専攻の科目一覧

科目区分		授業科目の名称	授業形態	必要単位数	配当年次							
					1年次		2年次		3年次		4年次	
					前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
教養科目（計33単位）	導入科目基礎	学びの技法	講	必修17単位＋選択5単位以上	必(1)							
		理解と表現	講		必(2)							
		社会貢献の方法と実践	講		必(1)							
		情報学	講		選(1)							
	人間の理解	心理学	講		必(2)							
		倫理学	講		選(1)							
		応用倫理学	講			必(1)						
		思想の歴史	講			選(1)						
	社会の認識	歴史学	講			選(1)						
		社会調査法	講		選(1)							
		現代の社会と人間	講				必(1)					
		北海道の医療と社会・経済	講			必(1)						
	自然の探求	文化人類学	講				選(1)					
		生命科学概論	講		必(1)							
		自然科学概論	講		必(1)							
		統計学	講		選(1)							
		生物学	講		選(1)							
		基礎生化学	講			必(2)						
		物理学	講			選(1)						
	英語科目	スポーツ・レクリエーション学	講					選(1)				
		基礎英語	講		必(2)							
		英会話	講			選(2)						
		英語ライティング	講					選(2)				
		保健医学英語Ⅰ	講					必(2)				
専門基礎科目（計47単位）	基礎医学	保健医学英語Ⅱ	講						選(2)			
		人体構造機能学Ⅰ（筋・骨関節系）	講	必修44単位＋選択1単位以上	必(3)							
		人体構造機能学Ⅰ（神経系）	講		必(2)							
		人体構造機能学Ⅰ（内臓・脈管系）	講			必(2)						
		人体構造機能学Ⅱ（筋・骨関節系）	演			必(1)						
		人体構造機能学Ⅱ（神経系）	演			必(1)						
		人体構造機能学Ⅱ（内臓・脈管系）	演				必(1)					
		人体構造機能学実習	実					必(3)				
		運動学	講			必(4)						
		運動学演習	演			必(3)						
	臨床医学	老年学	講				必(1)					
		人間発達学	講			必(1)						
		精神障害基礎論	講				必(1)					
		薬理学概論	講					必(1)				
		医学概論	講				必(1)					
		リハビリテーション概論	講		必(1)							
		周術期医療基礎論	講				必(1)					
		内部障害基礎論	講				必(2)					
		運動器障害基礎論	講				必(3)					
		中枢神経障害基礎論	講				必(2)					
	保健医療福祉とシヨンの理念	発達障害基礎論	講				必(1)					
		医用画像解析学概論	講					必(1)				
		臨床心理学	講				必(2)					
		医療安全管理学	講						必(1)			
		公衆衛生学	講								必(1)	
		福祉介護概論	講					選(1)				
		在宅リハビリテーション学	講					選(1)				
		言語聴覚療法概論	講					選(1)				
		健康増進障害予防概論	講			必(2)						
		健康増進障害予防演習Ⅰ（検査測定）	演					必(1)				
		健康増進障害予防演習Ⅱ（実践指導）	演								必(1)	

科目区分		授業科目の名称	授業形態	必要単位数	配当年次							
					1年次		2年次		3年次		4年次	
					前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
専門科目（計83単位）	基礎 療法 理学	理学療法概論	講	選択 79 単位 以上	選必(1)							
		日常生活活動学(理学療法)	講				選必(2)					
		物理療法学	講						選必(2)			
		義肢装具学（理学療法）	講						選必(2)			
	理学 療法 評価 学	理学療法基礎評価学Ⅰ	講				選必(2)					
		理学療法基礎評価学Ⅰ 演習	演				選必(1)					
		理学療法基礎評価学Ⅱ	講				選必(3)					
		日常生活活動評価学	講				選必(1)					
		日常生活活動評価学演習	演				選必(1)					
		神経障害理学療法学	講						選必(2)			
	理学 療法 治 療 学	神経障害理学療法学演習	演						選必(1)			
		神経障害理学療法学実習	実							選必(1)		
		運動器障害理学療法学	講						選必(2)			
		運動器障害理学療法学演習Ⅰ	演						選必(1)			
		運動器障害理学療法学演習Ⅱ	演							選必(1)		
		内部障害理学療法学	講						選必(2)			
		内部障害理学療法学演習Ⅰ	演						選必(1)			
		内部障害理学療法学演習Ⅱ	演							選必(1)		
		療 理 地 域 学 域	地域理学療法学		講						選必(2)	
	生活環境学（理学療法）		講							選必(2)		
	理学 療法 臨床 実習	臨床見学セミナー（理学療法）	演		選必(1)							
		臨床見学実習（理学療法）	実		選必(1)							
		臨床評価学セミナー（理学療法）	演							選必(1)		
		臨床評価学実習（理学療法）	実							選必(4)		
		臨床治療学セミナーⅠ（理学療法）	演								選必(1)	
		臨床治療学実習Ⅰ（理学療法）	実								選必(8)	
		臨床治療学セミナーⅡ（理学療法）	演								選必(1)	
		臨床治療学実習Ⅱ（理学療法）	実								選必(8)	
	応用 理学 療法	ケーススタディー	講							選必(2)		
		理学療法研究法	講							選必(1)		
		理学療法研究法演習（卒業研究）	演								選必(4)	
		理学療法管理学	講									選必(2)
		理学療法ゼミⅠ	講						選必(2)			
		理学療法ゼミⅡ	講									選必(4)
		スポーツ傷害理学療法学	講						選(1)			
		高齢者理学療法学	講						選必(1)			
		神経筋疾患理学療法学	講						選必(1)			
		神経障害理学療法学特論	講									選(2)
		運動器障害理学療法学特論	講									選(2)
		内部障害理学療法学特論	講									選(2)
		シ ョ ー テ ー リ ン	応用 生活行為向上リハビリテーション論		講					選(2)		
	国際医療支援論		講									
合計単位数				163	24	23	20	21	18	20	37	

※授業形態 「講」：講義 「演」：演習 「実」：実験・実習
 ※配当年次 「必」：必修科目 「選必」：選択必修科目 「選」：選択科目

作業療法学専攻の科目一覧

科目区分		授業科目の名称	授業形態	必要単位数	配当年次							
					1年次		2年次		3年次		4年次	
					前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
教養科目（計33単位）	導入科目基礎	学びの技法	講	必修17単位＋選択5単位以上	必(1)							
		理解と表現	講		必(2)							
		社会貢献の方法と実践	講		必(1)							
		情報学	講		選(1)							
	人間の理解	心理学	講		必(2)							
		倫理学	講		選(1)							
		応用倫理学	講			必(1)						
		思想の歴史	講			選(1)						
		歴史学	講			選(1)						
	社会の認識	社会調査法	講		選(1)							
		現代の社会と人間	講				必(1)					
		北海道の医療と社会・経済	講			必(1)						
		文化人類学	講				選(1)					
	自然の探求	生命科学概論	講		必(1)							
		自然科学概論	講		必(1)							
		統計学	講		選(1)							
		生物学	講		選(1)							
		基礎生化学	講			必(2)						
		物理学	講			選(1)						
	英語科目	スポーツ・レクリエーション学	講					選(1)				
		基礎英語	講		必(2)							
		英会話	講			選(2)						
		英語ライティング	講					選(2)				
		保健医学英語Ⅰ	講					必(2)				
		保健医学英語Ⅱ	講						選(2)			
専門基礎科目（計47単位）	基礎医学	人体構造機能学Ⅰ（筋・骨関節系）	講	必修44単位＋選択1単位以上	必(3)							
		人体構造機能学Ⅰ（神経系）	講		必(2)							
		人体構造機能学Ⅰ（内臓・脈管系）	講			必(2)						
		人体構造機能学Ⅱ（筋・骨関節系）	演			必(1)						
		人体構造機能学Ⅱ（神経系）	演			必(1)						
		人体構造機能学Ⅱ（内臓・脈管系）	演				必(1)					
		人体構造機能学実習	実					必(3)				
		運動学	講			必(4)						
		運動学演習	演			必(3)						
		老年学	講				必(1)					
	臨床医学	人間発達学	講			必(1)						
		精神障害基礎論	講				必(1)					
		薬理学概論	講					必(1)				
		医学概論	講				必(1)					
		リハビリテーション概論	講		必(1)							
		周術期医療基礎論	講				必(1)					
		内部障害基礎論	講				必(2)					
		運動器障害基礎論	講				必(3)					
		中枢神経障害基礎論	講				必(2)					
		発達障害基礎論	講				必(1)					
	保健医療福祉とシヨンの理念	医用画像解析学概論	講					必(1)				
		臨床心理学	講				必(2)					
		医療安全管理学	講						必(1)			
		公衆衛生学	講								必(1)	
		福祉介護概論	講				選(1)					
		在宅リハビリテーション学	講				選(1)					
		言語聴覚療法概論	講				選(1)					
		健康増進障害予防概論	講			必(2)						
		健康増進障害予防演習Ⅰ（検査測定）	演					必(1)				
		健康増進障害予防演習Ⅱ（実践指導）	演								必(1)	

2020（令和2）年度～2024（令和6）年度入学者

科目区分		授業科目の名称	授業形態	必要単位数	配当年次								
					1年次		2年次		3年次		4年次		
					前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
専門科目（計80単位）	基礎作業療法	作業療法概論	講	選択75単位以上	選必(1)								
		作業学概論	講					選必(1)					
		作業分析学	演					選必(2)					
		日常生活活動学（作業療法）	講					選必(2)					
		日常生活活動学（作業療法）演習	演					選必(1)					
		義肢装具学（作業療法）	講					選必(1)					
		義肢装具学（作業療法）演習	演					選必(1)					
		社会生活行為学	講						選必(1)				
	作業療法評価学	作業療法評価学（身体・老年期障害）	講			選必(1)							
		作業療法評価学演習Ⅰ（身体・老年期障害）	演				選必(1)						
		作業療法評価学演習Ⅱ（身体・老年期・発達障害）	演					選必(1)					
		作業療法評価学（精神障害）	講					選必(1)					
		作業療法評価学演習Ⅲ（精神障害）	演					選必(1)					
		作業療法評価学（発達障害）	講					選必(1)					
		作業療法評価学（高次脳機能障害）	講					選必(1)					
		作業療法評価学演習Ⅳ（高次脳機能障害）	演					選必(1)					
	作業療法治療学	身体障害作業治療学	講						選必(2)				
		精神障害作業治療学	講							選必(2)			
		発達障害作業治療学	講							選必(2)			
		老年期障害作業治療学	講							選必(2)			
		高次脳機能障害作業治療学	講							選必(1)			
		総合事例演習	演							選必(2)			
		総合実技演習	演							選必(2)			
		療作地 法業域	生活環境学（作業療法）		講					選必(2)			
	作業療法臨床実習	地域作業療法学	講						選必(2)				
		臨床見学セミナーⅠ（作業療法）	演		選(1)								
		臨床見学実習Ⅰ（作業療法）	実		選必(1)								
		臨床見学セミナーⅡ（作業療法）	演				選(1)						
		臨床見学実習Ⅱ（作業療法）	実				選必(1)						
		臨床評価学セミナー（作業療法）	演							選(1)			
		臨床評価学実習（作業療法）	実							選必(4)			
		臨床治療学セミナーⅠ（作業療法）	演								選(1)		
		臨床治療学実習Ⅰ（作業療法）	実									選(8)	
		臨床治療学セミナーⅡ（作業療法）	演								選(1)		
	応用作業療法	臨床治療学実習Ⅱ（作業療法）	実									選必(8)	
		作業療法研究法	講							選必(1)			
		作業療法研究法演習（卒業研究）	演									選必(4)	
		作業療法管理学	講										選必(2)
		作業療法特別セミナー	講										選(3)
		特別支援教育概論	講										選(1)
		箱づくり法	講										選(1)
		身体・老年期障害作業治療学特論	講										選(1)
		精神障害作業治療学特論	講										選(1)
		発達障害作業治療学特論	講										選(1)
	シ ョ ー ン	生活行為向上リハビリテーション論	講						選必(2)				
		国際医療支援論	講										選(1)
		合計単位数		160	24	24	20	23	15	19	35		

※授業形態 「講」：講義 「演」：演習 「実」：実験・実習
 ※配当年次 「必」：必修科目 「選必」：選択必修科目 「選」：選択科目

5. 教育マップ

(1) 教養科目

教養科目では、直接人を相手とする医療専門職に必須である豊かな人間性を培い、同時にリハビリテーションの知識と技術とが現代社会で果たす意味を学生が自覚できるようになることを目指しています。学生がリハビリテーション医療従事者としての使命感とやり甲斐とを、まず明確にしてほしいと願っています。具体的には、学習をはじめに当たってまず身につけておくべき態度と技術を教える「導入基礎科目」、そして人間・社会・自然に関する幅広い理解を得るために、「人間の理解」、「社会の認識」、「自然の探求」という科目区分を設けてあります。また、英語能力の多面的な修得のために、3年次まで多くの授業科目が開講されます。

(2) 専門基礎科目

専門基礎科目は、専門科目を学修する前に、その基礎となる事柄を修得します。「基礎医学」11科目、「臨床医学」12科目、「保健医療福祉とリハビリテーションの理念」7科目の3区分からなります。

(3) 専門科目

専門科目では、理学療法士、作業療法士になるために必須な専門的知識と技術を学修します。「基礎理学療法・基礎作業療法」、「理学療法評価学・作業療法評価学」、「理学療法治療学・作業療法治療学」、「地域理学療法・地域作業療法」、「理学療法臨床実習・作業療法臨床実習」、「応用理学療法・応用作業療法」、「応用リハビリテーション」の7つの科目区分からなり、理学療法学専攻42科目、作業療法学専攻46科目の授業科目があります。

理学療法学専攻 履修系統図(2020年度～2024年度以降入学者)

ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)

- ①【多様性の理解】
適切な理学療法を提供するために、対象者やその家族、保健・医療・福祉関係者一人ひとりの背景や価値観の多様性を尊重することができる。
- ②【コミュニケーション力】
対象者やその家族、保健・医療・福祉関係者の理解に努め、自らの考えを適切に伝えることができる。
- ③【専門知識と技術の活用】
理学療法士として必要な専門知識と技術を習得し、安全に実施、活用することができる。
- ④【課題発見・解決能力】
現状を分析し、目的や課題を明らかにした上で、科学的根拠と論理的思考をもって解決に向けて柔軟に取り組むことができる。
- ⑤【能動的に学び続ける力】
医学・医療の進歩ならびに理学療法士に求められる社会のニーズの変化に対応するために、自ら積極的に学び自己研鑽を継続することができる。
- ⑥【地域社会に貢献する姿勢と意欲】
地域社会に根差したリハビリテーションの実践を通して、地域社会に貢献する理学療法士としての役割を理解することができる。

科目分類の学修・教育目標		1年次		2年次	
		前期	後期	前期	後期
教養科目	【総合教育科目】 深い人間理解と 社会の認識を 現場に活かす能力	導入基礎科目	学びの技法 理解と表現 社会貢献の方法と実践 情報学		
		人間の理解	心理学 倫理学	応用倫理学 思想の歴史 歴史学	
		社会の認識	社会調査法	北海道の医療と社会・経済	現代の社会と人間 文化人類学
		自然の探求	生命科学概論 自然科学概論 統計学 生物学	基礎生化学 物理学	スポーツ・レクリエーション学
		英語科目	基礎英語	英会話	英語ライティング 保健医学英語Ⅰ
専門基礎科目	【基礎医学】 人体の構造・機能・動作を学ぶ	人体構造機能学Ⅰ(筋・骨関節系) 人体構造機能学Ⅰ(神経系)	人体構造機能学Ⅰ(内臓・脈管系) 人体構造機能学Ⅱ(筋・骨関節系) 人体構造機能学Ⅱ(神経系) 運動学 運動学演習 人間発達学	人体構造機能学Ⅱ(内臓・脈管系) 老年学	人体構造機能学実習
	【臨床医学】 リハビリテーションの基礎を学ぶ	リハビリテーション概論		精神障害基礎論 医学概論 周術期医療基礎論 内部障害基礎論 運動器障害基礎論 中枢神経障害基礎論 発達障害基礎論 臨床心理学	薬理学概論 医用画像解析学概論
	【保健医療福祉とリハビリテーションの理念】 健康増進のための 障害予防リハビリテーションを学ぶ		健康増進障害予防概論		福祉介護概論 在宅リハビリテーション学 言語聴覚療法概論 健康増進障害予防演習Ⅰ(検査測定)
専門科目	【基礎理学療法】 療法士としての関わり方の基礎を学ぶ	理学療法概論			日常生活活動学(理学療法)
	【理学療法評価学】 講義・演習を通し検査方法を学ぶ			理学療法基礎評価学Ⅰ 理学療法基礎評価学Ⅰ演習	理学療法基礎評価学Ⅱ 日常生活活動評価学 日常生活活動評価学演習
	【理学療法治療学】 治療までの流れを学習し、実践する				
	【地域理学療法学】 地域に貢献する能力や、 保健・福祉・介護における 支援について学ぶ				
	【理学療法臨床実習】 対象者を前に実践する	臨床見学セミナー(理学療法) 臨床見学実習(理学療法)			
	【応用理学療法】 キャリアの育成・卒業研究				
	【応用リハビリテーション】 知識を生活に応用する・ 国際的に貢献するための素養を深める				

				DP(ディプロマ・ポリシー)とカリキュラムの関連表					
3年次		4年次		DP ①	DP ②	DP ③	DP ④	DP ⑤	DP ⑥
前期	後期	前期	後期						
				○				○	
				○					
							○		○
						○			
保健医学英語Ⅱ					○				
							○	○	
医療安全管理学						○			
		公衆衛生学 健康増進障害予防演習Ⅱ(実践指導)				○			○
物理療法学 義肢装具学(理学療法)				○		○			
						○	○		
神経障害理学療法学 神経障害理学療法学演習 運動器障害理学療法学 運動器障害理学療法学演習Ⅰ 内部障害理学療法学 内部障害理学療法学演習Ⅰ	神経障害理学療法学実習 運動器障害理学療法学演習Ⅱ 内部障害理学療法学演習Ⅱ					○	○		
地域理学療法学 生活環境学(理学療法)						○			○
臨床評価学セミナー(理学療法) 臨床評価学実習(理学療法)		臨床治療学セミナーⅠ(理学療法) 臨床治療学実習Ⅰ(理学療法) 臨床治療学セミナーⅡ(理学療法) 臨床治療学実習Ⅱ(理学療法)		○	○	○	○	○	○
理学療法ゼミⅠ(※通年科目) スポーツ傷害理学療法学 高齢者理学療法学 神経筋疾患理学療法学	ケーススタディー 理学療法研究法	理学療法研究法演習(卒業研究) (※通年科目)	理学療法管理学 理学療法ゼミⅡ 神経障害理学療法学特論 運動器障害理学療法学特論 内部障害理学療法学特論			○	○	○	
生活行為向上リハビリテーション論		国際医療支援論		○					○

作業療法学専攻 履修系統図(2020年度～2024年度以降入学者)

ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)

- ①【多様性の理解】
作業療法士として関わる対象者やその家族、保健・医療・福祉関係者一人ひとりの背景や価値観を尊重することができる。
- ②【コミュニケーション力】
対象者やその家族、保健・医療・福祉関係者の多面的な理解に努め、作業療法士としての考えを適切に伝えることができる。
- ③【専門知識と技術の活用】
作業療法士として必要な医学的知識、心理学的知識、社会学的知識を基盤として、作業療法の専門知識と技術を活用し、作業療法を実践することができる。
- ④【課題発見・解決能力】
対象者と対象者を取り巻く環境の現状を分析し、課題を明らかにした上で、科学的根拠に基づき解決に向けて取り組むことができる。
- ⑤【能動的に学び続ける力】
医学・医療の進歩と作業療法士に求められる社会のニーズの変化に対応するために、能動的に自己研鑽することができる。
- ⑥【地域社会に貢献する姿勢と意欲】
地域社会におけるリハビリテーションの実践を活かして、作業療法士として地域社会に貢献する意欲をもつことができる。

科目分類の学修・教育目標			1年次		2年次	
			前期	後期	前期	後期
教養科目	【総合教育科目】 深い人間理解と 社会の認識を 現場に活かす能力	導入基礎科目	学びの技法 理解と表現 社会貢献の方法と実践 情報学			
		人間の理解	心理学 倫理学	応用倫理学 思想の歴史 歴史学		
		社会の認識	社会調査法	北海道の医療と社会・経済	現代の社会と人間 文化人類学	
		自然の探求	生命科学概論 自然科学概論 統計学 生物学	基礎生化学 物理学		スポーツ・レクリエーション学
		英語科目	基礎英語	英会話		英語ライティング 保健医学英語Ⅰ
専門基礎科目	【基礎医学】 人体の構造・機能・動作を学ぶ	人体構造機能学Ⅰ(筋・骨関節系) 人体構造機能学Ⅰ(神経系)	人体構造機能学Ⅰ(内臓・脈管系) 人体構造機能学Ⅱ(筋・骨関節系) 人体構造機能学Ⅱ(神経系) 運動学 運動学演習 人間発達学	人体構造機能学Ⅱ(内臓・脈管系) 老年学	人体構造機能学実習	
	【臨床医学】 リハビリテーションの基礎を学ぶ	リハビリテーション概論		精神障害基礎論 医学概論 周術期医療基礎論 内部障害基礎論 運動器障害基礎論 中枢神経障害基礎論 発達障害基礎論 臨床心理学	薬理学概論 医用画像解析学概論	
	【保健医療福祉とリハビリテーションの理念】 健康増進のための 障害予防リハビリテーションを学ぶ		健康増進障害予防概論		福祉介護概論 在宅リハビリテーション学 言語聴覚療法概論 健康増進障害予防演習Ⅰ(検査測定)	
専門科目	【基礎作業療法】 療法士としての関わり方の基礎を学ぶ	作業療法概論			作業学概論 作業分析学	
	【作業療法評価学】 講義・演習を通し検査方法を学ぶ		作業療法評価学(身体・老年期障害)	作業療法評価学演習Ⅰ(身体・老年期障害)	作業療法評価学演習Ⅱ(身体・老年期・発達障害) 作業療法評価学(精神障害) 作業療法評価学演習Ⅲ(精神障害) 作業療法評価学(発達障害) 作業療法評価学(高次脳機能障害) 作業療法評価学演習Ⅳ(高次脳機能障害)	
	【作業療法治療学】 治療までの流れを学習し、実践する					
	【地域作業療法学】 地域に貢献する能力や、 保健・福祉・介護における 支援について学ぶ					
	【作業療法臨床実習】 対象者を前に実践する	臨床見学セミナーⅠ(作業療法) 臨床見学実習Ⅰ(作業療法)		臨床見学セミナーⅡ(作業療法) 臨床見学実習Ⅱ(作業療法)		
	【応用作業療法】 キャリアの育成・卒業研究					
	【応用リハビリテーション】 知識を生活に応用する・ 国際的に貢献するための素養を深める					

				DP(ディプロマ・ポリシー)とカリキュラムの関連表					
3年次		4年次		DP ①	DP ②	DP ③	DP ④	DP ⑤	DP ⑥
前期	後期	前期	後期						
				○				○	
				○					
							○		○
						○			
保健医学英語Ⅱ					○				
						○	○		
医療安全管理学						○			
		公衆衛生学 健康増進障害予防演習Ⅱ(実践指導)				○			○
日常生活活動学(作業療法) 日常生活活動学(作業療法)演習 義肢装具学(作業療法) 義肢装具学(作業療法)演習	社会生活行為学					○	○		
						○	○		
身体障害作業治療学	精神障害作業治療学 発達障害作業治療学 老年期障害作業治療学 高次脳機能障害作業治療学 総合事例演習 総合実技演習			○		○	○		
生活環境学(作業療法) 地域作業療法学						○			○
	臨床評価学セミナー(作業療法) 臨床評価学実習(作業療法)	臨床治療学セミナーⅠ(作業療法) 臨床治療学実習Ⅰ(作業療法) 臨床治療学セミナーⅡ(作業療法) 臨床治療学実習Ⅱ(作業療法)		○	○	○	○	○	○
	作業療法研究法	作業療法研究法演習(卒業研究) (※通年科目)	作業療法管理学 作業療法特別セミナー 特別支援教育概論 箱づくり法 身体・老年期障害作業治療学特論 精神障害作業治療学特論 発達障害作業治療学特論			○	○	○	
生活行為向上リハビリテーション論		国際医療支援論		○					○

2020（令和2）年度～2024（令和6）年度入学者

※ 単位数および授業科目の読み替え表

入学時の教育課程が卒業まで適用されます。履修した授業科目の試験結果が不合格になるなど、本来の開講学年で単位を履修することができない場合、次年度に再履修し、試験に合格することで単位を修得することができます。ただし、教育課程の改正（授業科目の廃止・新設・単位数の変更）に伴い、当該授業科目を再履修できなくなる場合があります。

このため、廃止・単位数が変更された授業科目の代わりに別の授業科目を履修し、単位を修得することで、廃止・単位数が変更された授業科目の単位を修得したものと読み替えることがあります。

この授業科目の読み替え方法については、下記を確認してください。また、不明な点がありましたら、自分で判断せずに必ず学務課で確認してください。

		カリキュラム2020				カリキュラム2025				変更内容	カリキュラム2020の学生がカリキュラム2025を履修する際の読み替えの対応	
授業科目の名称		配当 年次	単位数			配当 年次	単位数					
			必 修	選 択	特 定 選 修		必 修	選 択	特 定 選 修			
両 専 攻	教 養 科 目	理解と表現	1前	2		15					科目廃止	カリキュラム2025の「教育学Ⅰ」「教育学Ⅱ」を履修することで読み替える
		教育学Ⅰ					1前	1		15	新科目	カリキュラム2020の「理解と表現」として読み替える
		教育学Ⅱ					1後	1		15	新科目、履修期変更	カリキュラム2020の「理解と表現」として読み替える、カリキュラム2025の開講期に履修する
		情報学	1前		1	15	1後		1	15	履修期変更	カリキュラム2025の開講期に履修する
		統計学	1前		1	15	1後		1	15	科目区分の移動、履修期変更	カリキュラム2025の開講期に履修する
		学びの技法	1前	1		15					科目廃止	カリキュラム2025の「文章表現法」を履修することで読み替える
		文章表現法					1前	1		15	新科目	カリキュラム2020の「学びの技法」として読み替える
		コミュニケーション論					1後		1	15	新科目	聴講を認めるが単位は選択としても認めない
		倫理学	1前		1	15					科目廃止	カリキュラム2025では開講しない
		応用倫理学	1後	1		15					科目廃止	カリキュラム2025の「生命倫理学」を履修することで読み替える
		生命倫理学					1前	1		15	新科目、履修期変更	カリキュラム2020の「応用倫理学」として読み替える、カリキュラム2025の開講期に履修する
		思想の歴史	1後		1	15					科目廃止	カリキュラム2025では開講しない
		歴史学	1後		1	15					科目廃止	カリキュラム2020の学生を対象とした履修を必要に応じて別に開講する
		社会調査法	1前		1	15	1後	1		15	履修期変更、選択から必修へ	カリキュラム2025の開講期に履修し、カリキュラム2020の「社会調査法」の選択科目の単位数取得とする
		現代の社会と人間	2前	1		15					科目廃止	カリキュラム2025の「地域保健と法律行政」を履修することで読み替える
		地域保健と法律行政					1前		1	15	新科目、履修年度変更、必修から選択へ	カリキュラム2020の「現代の社会と人間」として読み替える、カリキュラム2020の学生を対象とした履修を別に開講する、カリキュラム2020の「現代の社会と人間」の必修科目の単位数取得とする
		社会福祉の方法と実践	1前	1		15	2前	1		15	科目区分の移動、履修年度変更	カリキュラム2020の学生を対象とした履修を別に開講する
		北海道の医療と社会・経済	1後	1		15	1後		1	15	必修から選択へ	カリキュラム2020の「北海道の医療と社会・経済」の必修科目の単位数取得とする
		文化人類学	2前		1	15					科目廃止	カリキュラム2020の学生を対象とした履修を必要に応じて別に開講する
		健康科学					1前	1		15	新科目	聴講を認めるが単位は認めない
		スポーツ・レクリエーション学	2後		1	15	2後		1	15	科目区分の移動	カリキュラム2020の「スポーツ・レクリエーション学」の選択科目の単位数取得とする
		基礎英語	1前	2		15					科目廃止	カリキュラム2025の「基礎英語Ⅰ」を履修することで読み替える
		保健医学英語Ⅰ					1前	2		15	新科目	カリキュラム2020の「基礎英語Ⅰ」として読み替える
		保健医学英語Ⅱ	2後	2		15					科目廃止	カリキュラム2025の「保健医学英語Ⅱ」を履修することで読み替える
		保健医学英語Ⅲ					2後	2		15	新科目	カリキュラム2020の「保健医学英語Ⅱ」として読み替える
		英語Ⅰ	1後		2	15					科目廃止	カリキュラム2025の「英語Ⅰ」を履修することで読み替える
		英語ライティング	2後		2	15	1前		2	15	新科目、履修期変更	カリキュラム2020の「英語Ⅰ」として読み替える、カリキュラム2025の開講期に履修する
		英語Ⅱ					1前		2	15	科目廃止	カリキュラム2025の「英語Ⅱ」を履修することで読み替える
		保健医学英語Ⅱ	3前		2	15					新科目、履修期変更	カリキュラム2020の「英語ライティング」として読み替える、カリキュラム2025の開講期に履修する
		英語Ⅲ					3前		2	15	科目廃止	カリキュラム2025の「英語Ⅲ」を履修することで読み替える
		英語Ⅳ					1前		1	30	新科目	カリキュラム2020の「保健医学英語Ⅱ」として読み替える
		教養ゼミナールⅠ					1前	1		30	新科目	聴講を認めるが単位は認めない
		教養ゼミナールⅡ					1後	1		30	新科目	聴講を認めるが単位は認めない
		総合学習Ⅰ					2前	1		15	新科目	聴講を認めるが単位は認めない
		総合学習Ⅱ					2後	1		15	新科目	聴講を認めるが単位は認めない
		総合学習Ⅲ					4後	1		15	新科目	聴講を認めるが単位は認めない
両 専 攻	専 門 基 礎 科 目	人体構造機能学Ⅰ（筋・骨関節系）	1前	3		15	1前	2		15	単位数増加	カリキュラム2025の開講期に「人体構造機能学Ⅰ（筋・骨関節系）」（1年前期）と「人体構造機能学Ⅱ（筋・骨関節系）」（1年前期）の2科目（4単位）を履修することで読み替える
		人体構造機能学Ⅱ（筋・骨関節系）					1前	2		15	履修期変更	カリキュラム2025の開講期に履修する
		人体構造機能学Ⅰ（神経系）	1前	2		15	1後	2		15	履修期変更	カリキュラム2025の開講期に履修する
		人体構造機能学Ⅱ（筋・骨関節系）	1後	1		30	1前	2		15	履修期変更、単位数増加、時間数減少	カリキュラム2025の開講期に履修する
		人体構造機能学実習	2後	3		30					科目廃止	カリキュラム2025の開講期に「人体構造機能学実習」（2年後期）と「運動学Ⅱ」（2年前期）の2科目（4単位）を履修することで読み替える
		人体構造機能学演習					2後	1		30	新科目、科目の分割、履修期変更、単位数増加	カリキュラム2020の「人体構造機能学実習」として読み替える
		運動学Ⅱ					2前	3		15	※時間数が不足するので、不足時間数分のみカリキュラム2020の学生を対象とした履修を別に開講する	
		運動学	1後	4		15					科目廃止	カリキュラム2025の開講期に「基礎医学演習」（1年後期）と「運動学Ⅰ」（1年後期）の2科目（3単位）を履修することで読み替える
		基礎医学演習					1後	1		30	新科目、科目の分割、単位数減少	カリキュラム2020の「運動学」として読み替える
		運動学Ⅰ					1後	2		15	※単位数が不足するので、不足単位数分のみカリキュラム2020の学生を対象とした履修を別に開講する	
		運動学演習	1後	3		30	2後	2		30	履修年度変更、単位数減少	カリキュラム2020の学生を対象とした履修を別に開講する
		医学概論	2前	1		15	1前	1		15	履修年度変更	カリキュラム2020の学生を対象とした履修を別に開講する
		周術期医療基礎論	2前	1		15	3後	1		15	履修年度変更	カリキュラム2020の学生を対象とした履修を別に開講する
		公衆衛生学	4後	1		15	1後	1		15	履修年度変更	カリキュラム2020の学生を対象とした履修を別に開講する

2020（令和2）年度～2024（令和6）年度入学者

この授業科目の読み替え方法については、下記を確認してください。また、不明な点がありましたら、自分で判断せずに必ず学務課で確認してください。

		カリキュラム2020				カリキュラム2025						
授業科目の名称		配当 年次	単位数			配当 年次	単位数			変更内容	カリキュラム2020の学生がカリキュラム2025を履修する際の読み替えの対応	
			必 修	選 択	時 間 数		必 修	選 択	時 間 数			
同 専 攻	教 養 科 目	理解と表現	1前	2		15				科目廃止	カリキュラム2025の「教育学Ⅰ」「教育学Ⅱ」を履修することで読み替える	
		教育学Ⅰ					1前	1		15	新科目	カリキュラム2020の「理解と表現」として読み替える
		教育学Ⅱ					1後	1		15	新科目、履修期変更	カリキュラム2020の「理解と表現」として読み替える。カリキュラム2025の開講期に履修する
		情報学	1前		1	15	1後		1	15	履修期変更	カリキュラム2025の開講期に履修する
		統計学	1前		1	15	1後		1	15	科目区分の移動、履修期変更	カリキュラム2025の開講期に履修する
		学びの技法	1前	1		15					科目廃止	カリキュラム2025の「文章表現法」を履修することで読み替える
		文章表現法					1前	1		15	新科目	カリキュラム2020の「学びの技法」として読み替える
		コミュニケーション論					1後		1	15	新科目	聴講を認めるが単位は選択としても認めない
		倫理学	1前		1	15					科目廃止	カリキュラム2025では開講しない
		応用倫理学	1後	1		15					科目廃止	カリキュラム2025の「生命倫理学」を履修することで読み替える
		生命倫理学					1前	1		15	新科目、履修期変更	カリキュラム2020の「応用倫理学」として読み替える。カリキュラム2025の開講期に履修する
		思想の歴史	1後		1	15					科目廃止	カリキュラム2025では開講しない
		歴史学	1後		1	15					科目廃止	カリキュラム2020の学生を対象とした聴講を必要に応じて別に開講する
		社会調査法	1前		1	15	1後	1		15	履修期変更、選択から必修へ	カリキュラム2025の開講期に履修し、カリキュラム2020の「社会調査法」の選択科目の単位数取得とする
		現代の社会と人間	2前	1		15					科目廃止	カリキュラム2025の「地域保健と法律行政」を履修することで読み替える
		地域保健と法律行政					1前		1	15	新科目、履修年度変更、必修から選択へ	カリキュラム2020の「現代の社会と人間」として読み替える。カリキュラム2020の学生を対象とした聴講を別に開講する、カリキュラム2025の「現代の社会と人間」の必修科目の単位数取得とする
		社会実証の方法と実践	1前	1		15	2前	1		15	科目区分の移動、履修年度変更	カリキュラム2020の学生を対象とした聴講を別に開講する
		北海道の医療と社会・経済	1後	1		15	1後		1	15	必修から選択へ	カリキュラム2020の「北海道の医療と社会・経済」の必修科目の単位数取得とする
		文化人類学	2前		1	15					科目廃止	カリキュラム2020の学生を対象とした聴講を必要に応じて別に開講する
		健康科学					1前	1		15	新科目	聴講を認めるが単位は認めない
		スポーツ・レクリエーション学	2後		1	15	2後		1	15	科目区分の移動	カリキュラム2020の「スポーツ・レクリエーション学」の選択科目の単位数取得とする
		基礎英語	1前	2		15					科目廃止	カリキュラム2025の「基礎英語Ⅰ」を履修することで読み替える
		保健医学英語Ⅰ					1前	2		15	新科目	カリキュラム2020の「基礎英語Ⅰ」として読み替える
		保健医学英語Ⅱ	2後	2		15					科目廃止	カリキュラム2025の「保健医学英語Ⅱ」を履修することで読み替える
		保健医学英語Ⅲ					2後	2		15	新科目	カリキュラム2020の「保健医学英語Ⅱ」として読み替える
		英会話	1後		2	15					科目廃止	カリキュラム2025の「英語Ⅰ」を履修することで読み替える
		英語Ⅰ					1前		2	15	新科目、履修期変更	カリキュラム2020の「英会話」として読み替える。カリキュラム2025の開講期に履修する
		英語ライティング	2後		2	15					科目廃止	カリキュラム2025の「英語Ⅱ」を履修することで読み替える
		英語Ⅱ					1前		2	15	新科目、履修期変更	カリキュラム2020の「英語ライティング」として読み替える。カリキュラム2025の開講期に履修する
		保健医学英語Ⅳ	3前	2		15					科目廃止	カリキュラム2025の「英語Ⅲ」を履修することで読み替える
		英語Ⅲ					3前	2		15	新科目	カリキュラム2020の「保健医学英語Ⅲ」として読み替える
		英語Ⅳ					1前		1	30	新科目	聴講を認めるが単位は選択としても認めない
		数電ゼミナールⅠ					1前	1		30	新科目	聴講を認めるが単位は認めない
		数電ゼミナールⅡ					1後	1		30	新科目	聴講を認めるが単位は認めない
		総合学習Ⅰ					2前	1		15	新科目	聴講を認めるが単位は認めない
		総合学習Ⅱ					2後	1		15	新科目	聴講を認めるが単位は認めない
		総合学習Ⅲ					4後	1		15	新科目	聴講を認めるが単位は認めない
同 専 攻	専 門 基 礎 科 目	人体構造機能学Ⅰ（筋・骨関節系）	1前	3		15	1前	2		15	単位数増加	カリキュラム2025の開講期に「人体構造機能学Ⅰ（筋・骨関節系）」（1年前期）と「人体構造機能学Ⅱ（筋・骨関節系）」（1年前期）の2科目（4単位）を履修することで読み替える
		人体構造機能学Ⅱ（筋・骨関節系）					1前	2		15	履修期変更	カリキュラム2025の開講期に履修する
		人体構造機能学Ⅰ（神経系）	1前	2		15	1後	2		15	履修期変更、単位数増加、時間数減少	カリキュラム2025の開講期に履修する
		人体構造機能学Ⅱ（筋・骨関節系）	1後	1		30	1前	2		15	科目廃止	カリキュラム2025の開講期に「人体構造機能学Ⅱ（2年後期）」と「運動学Ⅱ」（2年前期）の2科目（4単位）を履修することで読み替える
		人体構造機能学実習	2後	3		30					新科目、科目の分割、履修期変更、単位数増加	カリキュラム2020の「人体構造機能学実習」として読み替える
		人体構造機能学演習					2後	1		30	新科目、科目の分割、履修期変更、単位数増加	※時間数が18不足するので、不足時間数分のみカリキュラム2020の学生を対象とした聴講を別に開講する
		運動学Ⅱ					2前	3		15	科目廃止	カリキュラム2025の開講期に「基礎医学演習」（1年前期）と「運動学Ⅰ」（1年後期）の2科目（3単位）を履修することで読み替える
		運動学	1後	4		15					新科目、科目の分割、単位数減少	カリキュラム2020の「運動学」として読み替える
		基礎医学演習					1後	1		30	新科目、科目の分割、単位数減少	※単位数が1不足するので、不足単位数分のみカリキュラム2020の学生を対象とした聴講を別に開講する
		運動学Ⅰ					1後	2		15	履修年度変更、単位数減少	カリキュラム2020の学生を対象とした聴講を別に開講する
		運動学演習	1後	3		30	2後	2		30	履修年度変更	カリキュラム2020の学生を対象とした聴講を別に開講する
		医学概論	2前	1		15	1前	1		15	履修年度変更	カリキュラム2020の学生を対象とした聴講を別に開講する
		周術期医療基礎論	2前	1		15	3後	1		15	履修年度変更	カリキュラム2020の学生を対象とした聴講を別に開講する
		公衆衛生学	4後	1		15	1後	1		15	履修年度変更	カリキュラム2020の学生を対象とした聴講を別に開講する

Ⅱ-Ⅱ. 履修について **2025（令和 7）年度以降入学者**

1. 進級要件

学生が進級するためには、次の条件を満たさなければなりません。

- (1) その学年の必修科目、選択必修科目の単位を全て修得すること。
- (2) 理学療法学専攻および作業療法学専攻ごとに規定する単位数を修得していること。

【理学療法学専攻】

要件	1 年 生	2 年 生	3 年 生
	2 年次へ進級するために 1 年次修了時までに修得しなければならない単位数	3 年次へ進級するために 2 年次修了時までに修得しなければならない単位数	4 年次へ進級するために 3 年次修了時までに修得しなければならない単位数
単	教養科目 1 6 単位	教養科目 2 1 単位	教養科目 2 5 単位
位	専門基礎科目 1 8 単位	専門基礎科目 4 1 単位	専門基礎科目 4 3 単位
数	専門科目 3 単位	専門科目 8 単位	専門科目 4 3 単位

【作業療法学専攻】

要件	1 年 生	2 年 生	3 年 生
	2 年次へ進級するために 1 年次修了時までに修得しなければならない単位数	3 年次へ進級するために 2 年次修了時までに修得しなければならない単位数	4 年次へ進級するために 3 年次修了時までに修得しなければならない単位数
単	教養科目 1 6 単位	教養科目 2 1 単位	教養科目 2 5 単位
位	専門基礎科目 1 8 単位	専門基礎科目 4 1 単位	専門基礎科目 4 3 単位
数	専門科目 3 単位	専門科目 1 8 単位	専門科目 5 3 単位

2. 卒業要件

学生が卒業するためには、理学療法学専攻および作業療法学専攻ごとに規定する所定の科目を履修し、必要な単位数を修得しなければなりません。

【理学療法学専攻】

- (1) 理学療法学専攻における卒業に必要な単位取得数は、150単位です。
- (2) 最も履修単位が多い1年次の履修可能単位数は、50単位（必修科目34単位、選択科目16単位）であることから、この50単位をもって1年間の履修科目の登録上限とします。

科 目	必修科目	選択科目	合 計
教養科目	22単位	4単位	26単位
専門基礎科目	43単位	1単位	44単位
専門科目	0単位	80単位	80単位
合 計	65単位	85単位	150単位

※ 専門科目の選択科目は、選択必修科目から74単位および選択科目から6単位以上を修得しなければなりません。なお、選択科目の履修は下記により選択してください。

応 用 理 学 療 法	スポーツ傷害理学療法学	3年後期	1単位	5科目 より 6単位 以上 選択
	神経障害理学療法学特論	4年後期	2単位	
	運動器障害理学療法学特論	4年後期	2単位	
	内部障害理学療法学特論	4年後期	2単位	
応 用 リ ハ ビ リ テ ー シ ョ ン	生活行為向上リハビリテーション論	3年前期	2単位	

【作業療法学専攻】

- (1) 作業療法学専攻における卒業に必要な単位取得数は、149単位です。
- (2) 最も履修単位が多い1年次の履修可能単位数は、50単位（必修科目34単位、選択科目16単位）であることから、この50単位をもって1年間の履修科目の登録上限とします。

科 目	必修科目	選択科目	合 計
教養科目	22単位	4単位	26単位
専門基礎科目	43単位	1単位	44単位
専門科目	0単位	79単位	79単位
合 計	65単位	84単位	149単位

※ 専門科目の選択科目は、選択必修科目から78単位および選択科目から1単位以上を修得しなければなりません。なお、選択科目の履修は下記により選択してください。

応 用 作 業 療 法	特別支援教育概論	4年後期	1単位	4科目 より 1単位 以上 選択
	身体・老年期障害作業治療学特論	4年後期	1単位	
	精神障害作業治療学特論	4年後期	1単位	
	発達障害作業治療学特論	4年後期	1単位	

3. 臨床実習

理学療法学専攻および作業療法学専攻の臨床実習は、基礎的な理学療法・作業療法が実施できるレベルを目指し、人を思いやる心や責任感を養うことを目標としています。同時に、観察力や思考力及び表現力を高めることで対象となる方々の有する問題を解決する能力を身につけることを目指します。

【理学療法学専攻】

科 目 名	単位数	時 期	期 間
①臨床見学実習(理学療法)	1 単位	1 年前期(9 月予定)	1 週間
②臨床評価学実習(理学療法)	4 単位	3 年後期(1～2 月予定)	4 週間
③臨床治療学実習Ⅰ(理学療法)	8 単位	4 年前期(4～6 月予定)	8 週間
④臨床治療学実習Ⅱ(理学療法)	8 単位	4 年前期(7～8 月予定)	8 週間

※ ②臨床評価学実習(理学療法)の履修条件

専門科目の科目区分「理学療法評価学」のすべての授業科目および臨床見学実習(理学療法)を修得していなければなりません。

※ ③臨床治療学実習Ⅰ(理学療法)および④臨床治療学実習Ⅱ(理学療法)の履修条件

専門科目の科目区分「理学療法治療学」のすべての授業科目および臨床評価学実習(理学療法)を修得していなければなりません。

【作業療法学専攻】

科 目 名	単位数	時 期	期 間
①臨床見学実習Ⅰ(作業療法)	1 単位	1 年前期(9 月予定)	1 週間
②臨床見学実習Ⅱ(作業療法)	1 単位	2 年前期(9 月予定)	1 週間
③臨床評価学実習(作業療法)	4 単位	3 年後期(1～2 月予定)	4 週間
④臨床治療学実習Ⅰ(作業療法)	8 単位	4 年前期(4～6 月予定)	8 週間
⑤臨床治療学実習Ⅱ(作業療法)	8 単位	4 年前期(7～8 月予定)	8 週間

※ ③臨床評価学実習(作業療法)の履修条件

専門科目の科目区分「作業療法評価学」のすべての授業科目、作業分析学、日常生活活動学(作業療法)、臨床見学実習Ⅰ(作業療法)および臨床見学実習Ⅱ(作業療法)を修得していなければなりません。

※ ④臨床治療学実習Ⅰ(作業療法)および⑤臨床治療学実習Ⅱ(作業療法)の履修条件

専門科目の科目区分「作業療法治療学」のすべての授業科目および臨床評価学実習(作業療法)を修得していなければなりません。

4. 科目一覧

理学療法専攻の科目一覧

科目区分		授業科目の名称	授業形態	必要単位数	配当年次							
					1年次		2年次		3年次		4年次	
					前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
教養科目（38単位）	導入基礎科目	教育学Ⅰ	講	必修22単位＋選択から4単位以上	必(1)							
		教育学Ⅱ	講			必(1)						
		情報学	講			選(1)						
		統計学	講			選(1)						
	人間の理解	文章表現法	講		必(1)							
		心理学	講		必(2)							
		コミュニケーション論	講			選(1)						
	社会の認識	生命倫理学	講		必(1)							
		社会調査法	講			必(1)						
		地域保健と法律行政	講		選(1)							
		社会貢献の方法と実践	講				必(1)					
		北海道の医療と社会・経済	講			選(1)						
	自然の探求	国際理解と支援	講		選(1)							
		生命科学概論	講		必(1)							
		自然科学概論	講		必(1)							
		生物学	講		選(1)							
		基礎生化学	講			必(2)						
	健康の探求	物理学	講			選(1)						
		健康科学	講		必(1)							
	英語科目	スポーツ・レクリエーション学	講					選(1)				
		保健医学英語Ⅰ	講		必(2)							
		保健医学英語Ⅱ	講				必(2)					
		英語Ⅰ	講		選(2)							
		英語Ⅱ	講		選(2)							
	総合講義	英語Ⅲ	講						選(2)			
		英語Ⅳ	演		選(1)							
		教養ゼミナールⅠ	演		必(1)							
		教養ゼミナールⅡ	演			必(1)						
		総合学習Ⅰ	講				必(1)					
専門基礎科目（計46単位）	基礎医学	総合学習Ⅱ	講	必修43単位＋選択より1単位以上			必(1)					
		総合学習Ⅲ	講									必(1)
		人体構造機能学Ⅰ（筋・骨関節系）	講		必(2)							
		人体構造機能学Ⅰ（神経系）	講			必(2)						
		人体構造機能学Ⅰ（内臓・脈管系）	講			必(2)						
		人体構造機能学Ⅱ（筋・骨関節系）	講		必(2)							
		人体構造機能学Ⅱ（神経系）	演			必(1)						
		人体構造機能学Ⅱ（内臓・脈管系）	演				必(1)					
		基礎医学演習	演			必(1)						
		人体構造機能学演習	演				必(1)					
		運動学Ⅰ	講			必(2)						
		運動学Ⅱ	講				必(3)					
		運動学演習	演					必(2)				
		老年学	講				必(1)					
		人間発達学	講			必(1)						
	臨床医学	精神障害基礎論	講				必(1)					
		薬理学概論	講					必(1)				
		医学概論	講		必(1)							
		リハビリテーション概論	講		必(1)							
		周術期医療基礎論	講						必(1)			
		内部障害基礎論	講				必(2)					
		運動器障害基礎論	講				必(3)					
		中枢神経障害基礎論	講				必(2)					
		発達障害基礎論	講				必(1)					
		医用画像解析学概論	講					必(1)				
	保健医療福祉とシヨンの理念	臨床心理学	講				必(2)					
		医療安全管理学	講						必(1)			
		公衆衛生学	講			必(1)						
		福祉介護概論	講					選(1)				
		在宅リハビリテーション学	講					選(1)				
		言語聴覚療法概論	講					選(1)				
		健康増進障害予防概論	講			必(2)						
		健康増進障害予防演習Ⅰ（検査測定）	演					必(1)				
		健康増進障害予防演習Ⅱ（実践指導）	演									必(1)

2025（令和7）年度以降入学者

科目区分	授業科目の名称	授業形態	必要単位数	配当年次							
				1年次		2年次		3年次		4年次	
				前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
専門科目（計83単位）	基礎理学	理学療法概論	講	選必(1)							
		日常生活活動学(理学療法)	講				選必(2)				
		物理療法学	講						選必(2)		
		義肢装具学(理学療法)	講						選必(2)		
	理学療法	理学療法基礎評価学演習Ⅰ	演			選必(1)					
		理学療法基礎評価学演習Ⅱ	演				選必(1)				
		理学療法基礎評価学演習Ⅲ	演					選必(2)			
		日常生活活動評価学	講				選必(1)				
	理学療法治療学	日常生活活動評価学演習	演					選必(1)			
		神経障害理学療法学	講					選必(2)			
		神経障害理学療法学演習Ⅰ	演					選必(1)			
		神経障害理学療法学演習Ⅱ	演						選必(1)		
		運動器障害理学療法学	講					選必(2)			
		運動器障害理学療法学演習Ⅰ	演					選必(1)			
		運動器障害理学療法学演習Ⅱ	演						選必(1)		
		内部障害理学療法学	講					選必(2)			
		内部障害理学療法学演習Ⅰ	演					選必(1)			
		内部障害理学療法学演習Ⅱ	演						選必(1)		
	療法地学域	地域理学療法学	講						選必(2)		
		生活環境学(理学療法)	講						選必(2)		
	理学療法臨床実習	臨床見学セミナー(理学療法)	演	選必(1)							
		臨床見学実習(理学療法)	実	選必(1)							
		臨床評価学セミナー(理学療法)	演						選必(1)		
		臨床評価学実習(理学療法)	実						選必(4)		
		臨床治療学セミナーⅠ(理学療法)	演							選必(1)	
		臨床治療学実習(理学療法)	実							選必(8)	
		臨床治療学セミナーⅡ(理学療法)	演							選必(1)	
		臨床治療学実習Ⅱ(理学療法)	実							選必(8)	
	応用理学療法	ケーススタディー	講						選必(2)		
		理学療法研究法	講						選必(1)		
		理学療法研究法演習	演							選必(4)	
		理学療法管理学	講								選必(2)
		理学療法特別セミナー	講								選必(3)
		理学療法ゼミⅠ	講					選必(2)			
		理学療法ゼミⅡ	講								選必(4)
		スポーツ傷害理学療法学	講						選(1)		
		高齢者理学療法学	講					選必(1)			
		神経筋疾患理学療法学	講					選必(1)			
		神経障害理学療法学特論	講								選(2)
		運動器障害理学療法学特論	講								選(2)
		内部障害理学療法学特論	講								選(2)
	応用リハビリテーション	生活行為向上リハビリテーション論	講					選(2)			
合計単位数			167	28	22	19	17	42		39	

※授業形態 「講」：講義 「演」：演習 「実」：実験・実習
 ※配当年次 「必」：必修科目 「選必」：選択必修科目 「選」：選択科目

作業療法学専攻の科目一覧

科目区分		授業科目の名称	授業形態	必要単位数	配当年次							
					1年次		2年次		3年次		4年次	
					前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
教養科目（計38単位）	導入基礎	教育学Ⅰ	講	必修22単位＋選択から4単位以上	必(1)							
		教育学Ⅱ	講			必(1)						
		情報学	講			選(1)						
		統計学	講			選(1)						
		文章表現法	講		必(1)							
	人間の理解	心理学	講		必(2)							
		コミュニケーション論	講			選(1)						
		生命倫理学	講		必(1)							
	社会の認識	社会調査法	講			必(1)						
		地域保健と法律行政	講		選(1)							
		社会貢献の方法と実践	講				必(1)					
		北海道の医療と社会・経済	講			選(1)						
		国際理解と支援	講		選(1)							
	自然の探求	生命科学概論	講		必(1)							
		自然科学概論	講		必(1)							
		生物学	講		選(1)							
		基礎生化学	講			必(2)						
		物理学	講			選(1)						
	健康探求	健康科学	講		必(1)							
		スポーツ・レクリエーション学	講					選(1)				
	英語科目	保健医学英語Ⅰ	講		必(2)							
		保健医学英語Ⅱ	講				必(2)					
		英語Ⅰ	講		選(2)							
		英語Ⅱ	講		選(2)							
		英語Ⅲ	講						選(2)			
	総合講義	英語Ⅳ	演		選(1)							
		教養ゼミナールⅠ	演		必(1)							
		教養ゼミナールⅡ	演			必(1)						
		総合学習Ⅰ	講				必(1)					
		総合学習Ⅱ	講					必(1)				
専門基礎科目（計46単位）	基礎医学	総合学習Ⅲ	講									必(1)
		人体構造機能学Ⅰ（筋・骨関節系）	講	必修43単位＋選択より1単位以上	必(2)							
		人体構造機能学Ⅰ（神経系）	講			必(2)						
		人体構造機能学Ⅰ（内臓・脈管系）	講			必(2)						
		人体構造機能学Ⅱ（筋・骨関節系）	講		必(2)							
		人体構造機能学Ⅱ（神経系）	演			必(1)						
		人体構造機能学Ⅱ（内臓・脈管系）	演				必(1)					
		基礎医学演習	演			必(1)						
		人体構造機能学演習	演					必(1)				
		運動学Ⅰ	講			必(2)						
		運動学Ⅱ	講				必(3)					
		運動学演習	演					必(2)				
		老年学	講				必(1)					
		人間発達学	講			必(1)						
	臨床医学	精神障害基礎論	講				必(1)					
		薬理学概論	講					必(1)				
		医学概論	講		必(1)							
		リハビリテーション概論	講		必(1)							
		周術期医療基礎論	講							必(1)		
		内部障害基礎論	講				必(2)					
		運動器障害基礎論	講				必(3)					
		中枢神経障害基礎論	講				必(2)					
		発達障害基礎論	講				必(1)					
		医用画像解析学概論	講					必(1)				
	保健医療福祉とシヨンの理念	臨床心理学	講				必(2)					
		医療安全管理学	講							必(1)		
		公衆衛生学	講			必(1)						
		福祉介護概論	講					選(1)				
		在宅リハビリテーション学	講					選(1)				
		言語聴覚療法概論	講					選(1)				
		健康増進障害予防概論	講			必(2)						
		健康増進障害予防演習Ⅰ（検査測定）	演					必(1)				
		健康増進障害予防演習Ⅱ（実践指導）	演									必(1)

2025（令和7）年度以降入学者

科目区分		授業科目の名称	授業形態	必要単位数	配当年次							
					1年次		2年次		3年次		4年次	
					前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
専門科目（計82単位）	基礎作業療法	作業療法概論	講	選択79単位以上	選必(1)							
		作業学概論	講				選必(1)					
		作業分析学	演					選必(2)				
		日常生活活動学（作業療法）	講					選必(2)				
		日常生活活動学（作業療法）演習	演						選必(1)			
		義肢装具学（作業療法）	講						選必(1)			
		義肢装具学（作業療法）演習	演						選必(1)			
		社会生活行為学	講							選必(1)		
	作業療法評価学	作業療法評価学（身体・老年期障害）	講				選必(1)					
		作業療法評価学演習Ⅰ（身体・老年期障害）	演				選必(1)					
		作業療法評価学演習Ⅱ（身体・老年期・発達障害）	演					選必(1)				
		作業療法評価学（精神障害）	講					選必(1)				
		作業療法評価学演習Ⅲ（精神障害）	演					選必(1)				
		作業療法評価学（発達障害）	講					選必(1)				
		作業療法評価学（高次脳機能障害）	講					選必(1)				
		作業療法評価学演習Ⅳ（高次脳機能障害）	演					選必(1)				
	作業療法治療学	身体障害作業治療学	講						選必(2)			
		精神障害作業治療学	講						選必(2)			
		発達障害作業治療学	講						選必(2)			
		老年期障害作業治療学	講							選必(2)		
		高次脳機能障害作業治療学	講							選必(1)		
		総合事例演習	演							選必(2)		
		総合実技演習	演							選必(2)		
	療 作 地 法 業 域	生活環境学（作業療法）	講						選必(2)			
		地域作業療法学	講						選必(2)			
	作 業 療 法 臨 床 実 習	臨床見学セミナーⅠ（作業療法）	演		選必(1)							
		臨床見学実習Ⅰ（作業療法）	実		選必(1)							
		臨床見学セミナーⅡ（作業療法）	演				選必(1)					
		臨床見学実習Ⅱ（作業療法）	実				選必(1)					
		臨床評価学セミナー（作業療法）	演						選必(1)			
		臨床評価学実習（作業療法）	実						選必(4)			
		臨床治療学セミナーⅠ（作業療法）	演							選必(1)		
		臨床治療学実習Ⅰ（作業療法）	実							選必(8)		
		臨床治療学セミナーⅡ（作業療法）	演							選必(1)		
		臨床治療学実習Ⅱ（作業療法）	実							選必(8)		
	応 用 作 業 療 法	作業療法研究法	講						選必(1)			
		作業療法研究法演習	演								選必(4)	
		作業療法管理学	講						選必(2)			
		作業療法特別セミナーⅠ	講						選必(2)			
		作業療法特別セミナーⅡ	講							選必(2)		
		作業療法特別セミナーⅢ	講								選必(3)	
		特別支援教育概論	講								選(1)	
		身体・老年期障害作業治療学特論	講								選(1)	
		精神障害作業治療学特論	講								選(1)	
		発達障害作業治療学特論	講								選(1)	
	シ ョ ー ン	生活行為向上リハビリテーション論	講						選必(2)			
合計単位数				166	28	22	23	23	22	17	31	

※授業形態 「講」：講義 「演」：演習 「実」：実験・実習
 ※配当年次 「必」：必修科目 「選必」：選択必修科目 「選」：選択科目

5. 教育マップ

(1) 教養科目

教養科目は、豊かな人間性を培うため幅広い知識を学びます。専門的な学習を行う上で必要な知識を身につける「導入基礎科目」、幅広い知識を学ぶ「人間の理解」、「社会の認識」、「自然の探求」、「健康の探求」、国際貢献に必須な「英語科目」に区分しました。また学習した知識を深めるため、少人数ゼミ形式で行われる「総合講義」を新設しました。

(2) 専門基礎科目

専門基礎科目は、専門科目を学修する前に、その基礎となる事柄を修得します。「基礎医学」13科目、「臨床医学」12科目、「保健医療福祉とリハビリテーションの理念」7科目の3区分からなります。

(3) 専門科目

専門科目では、理学療法士、作業療法士になるために必須な専門的知識と技術を学修します。「基礎理学療法・基礎作業療法」、「理学療法評価学・作業療法評価学」、「理学療法治療学・作業療法治療学」、「地域理学療法・地域作業療法」、「理学療法臨床実習・作業療法臨床実習」、「応用理学療法・応用作業療法」、「応用リハビリテーション」の7つの科目区分からなり、理学療法学専攻42科目、作業療法学専攻46科目の授業科目があります。

理学療法学専攻 履修系統図(2025年度以降入学者)

ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)

- ①【多様性の理解】
適切な理学療法を提供するために、対象者やその家族、保健・医療・福祉関係者一人ひとりの背景や価値観の多様性を尊重することができる。
- ②【コミュニケーション力】
対象者やその家族、保健・医療・福祉関係者の理解に努め、自らの考えを適切に伝えることができる。
- ③【専門知識と技術の活用】
理学療法士として必要な専門知識と技術を習得し、安全に実施、活用することができる。
- ④【課題発見・解決能力】
現状を分析し、目的や課題を明らかにした上で、科学的根拠と論理的思考をもって解決に向けて柔軟に取り組むことができる。
- ⑤【能動的に学び続ける力】
医学・医療の進歩ならびに理学療法士に求められる社会のニーズの変化に対応するために、自ら積極的に学び自己研鑽を継続することができる。
- ⑥【地域社会に貢献する姿勢と意欲】
地域社会に根差したリハビリテーションの実践を通して、地域社会に貢献する理学療法士としての役割を理解することができる。

科目分類の学修・教育目標			1年次		2年次	
			前期	後期	前期	後期
教養科目	【総合教育科目】 深い人間理解と 社会の認識を 現場に活かす能力	導入基礎科目	教育学Ⅰ 文章表現法	教育学Ⅱ 情報学 統計学		
		人間の理解	心理学 生命倫理学	コミュニケーション論		
		社会の認識	地域保健と法律行政 国際理解と支援	社会調査法 北海道の医療と社会・経済	社会貢献の方法と実践	
		自然の探求	生命科学概論 自然科学概論 生物学	基礎生化学 物理学		
		健康の探求	健康科学		スポーツ・レクリエーション学	
		英語科目	保健医学英語Ⅰ 英語Ⅰ 英語Ⅱ 英語Ⅳ		保健医学英語Ⅱ	
			総合講義	教養ゼミナールⅠ	教養ゼミナールⅡ	総合学習Ⅰ
専門基礎科目	【基礎医学】 人体の構造・機能・動作を学ぶ	人体構造機能学Ⅰ（筋・骨関節系） 人体構造機能学Ⅱ（筋・骨関節系）	人体構造機能学Ⅰ（神経系） 人体構造機能学Ⅰ（内臓・脈管系） 人体構造機能学Ⅱ（神経系） 基礎医学演習 運動学Ⅰ 人間発達学	人体構造機能学Ⅱ（内臓・脈管系） 運動学Ⅱ 老年学	人体構造機能学演習 運動学演習	
	【臨床医学】 リハビリテーションの基礎を学ぶ	医学概論 リハビリテーション概論		精神障害基礎論 内部障害基礎論 運動器障害基礎論 中枢神経障害基礎論 発達障害基礎論 臨床心理学	薬理学概論 医用画像解析学概論	
	【保健医療福祉とリハビリテーションの理念】 健康増進のための 障害予防リハビリテーションを学ぶ		公衆衛生学 健康増進障害予防概論		福祉介護概論 在宅リハビリテーション学 言語聴覚療法概論 健康増進障害予防演習Ⅰ（検査測定） 日常生活活動学（理学療法）	
専門科目	【基礎理学療法】 療法士としての関わり方の基礎を学ぶ	理学療法概論				
	【理学療法評価学】 講義・演習を通し検査方法を学ぶ			理学療法基礎評価学演習Ⅰ	理学療法基礎評価学演習Ⅱ 日常生活活動評価学	
	【理学療法治療学】 治療までの流れを学習し、 実践する					
	【地域理学療法学】 地域に貢献する能力や、 保健・福祉・介護における 支援について学ぶ					
	【理学療法臨床実習】 対象者を前に実践する	臨床見学セミナー（理学療法） 臨床見学実習（理学療法）				
	【応用理学療法】 キャリアの育成・卒業研究					
	【応用リハビリテーション】 知識を生活に応用する					

				DP(ディプロマ・ポリシー)とカリキュラムの関連表					
3年次		4年次		DP ①	DP ②	DP ③	DP ④	DP ⑤	DP ⑥
前期	後期	前期	後期						
				○			○	○	
				○	○				
							○		○
						○			
						○			
英語Ⅲ					○				
		総合学習Ⅲ		○				○	
						○	○		
	周術期医療基礎論 医療安全管理学					○			
		健康増進障害予防演習Ⅱ(実践指導)				○			○
	物理療法学 義肢装具学(理学療法)			○		○			
理学療法基礎評価学演習Ⅲ 日常生活活動評価学演習						○	○		
神経障害理学療法学 神経障害理学療法学演習Ⅰ 運動器障害理学療法学 運動器障害理学療法学演習Ⅰ 内部障害理学療法学 内部障害理学療法学演習Ⅰ	神経障害理学療法学演習Ⅱ 運動器障害理学療法学演習Ⅱ 内部障害理学療法学演習Ⅱ					○	○		
地域理学療法学 生活環境学(理学療法)						○			○
臨床評価学セミナー(理学療法) 臨床評価学実習(理学療法)		臨床治療学セミナーⅠ(理学療法) 臨床治療学実習Ⅰ(理学療法) 臨床治療学セミナーⅡ(理学療法) 臨床治療学実習Ⅱ(理学療法)		○	○	○	○	○	○
理学療法ゼミⅠ(※通年科目) 高齢者理学療法学 神経筋疾患理学療法学	ケーススタディー 理学療法研究法 スポーツ傷害理学療法学	理学療法研究法演習(※通年科目)	理学療法管理学 理学療法特別セミナー 理学療法ゼミⅡ 神経障害理学療法学特論 運動器障害理学療法学特論 内部障害理学療法学特論			○	○	○	
生活行為向上リハビリテーション論									○

作業療法学専攻 履修系統図(2025年度以降入学者)

ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)

- ①【多様性の理解】
作業療法士として関わる対象者やその家族、保健・医療・福祉関係者一人ひとりの背景や価値観を尊重することができる。
- ②【コミュニケーション力】
対象者やその家族、保健・医療・福祉関係者の多面的な理解に努め、作業療法士としての考えを適切に伝えることができる。
- ③【専門知識と技術の活用】
作業療法士として必要な医学的知識、心理学的知識、社会学的知識を基盤として、作業療法の専門知識と技術を活用し、作業療法を実践することができる。
- ④【課題発見・解決能力】
対象者と対象者を取り巻く環境の現状を分析し、課題を明らかにした上で、科学的根拠に基づき解決に向けて取り組むことができる。
- ⑤【能動的に学び続ける力】
医学・医療の進歩と作業療法士に求められる社会のニーズの変化に対応するために、能動的に自己研鑽することができる。
- ⑥【地域社会に貢献する姿勢と意欲】
地域社会におけるリハビリテーションの実践を活かして、作業療法士として地域社会に貢献する意欲をもつことができる。

科目分類の学修・教育目標			1年次		2年次	
			前期	後期	前期	後期
教養科目	【総合教育科目】 深い人間理解と 社会の認識を 現場に活かす能力	導入基礎科目	教育学Ⅰ 文章表現法	教育学Ⅱ 情報学 統計学		
		人間の理解	心理学 生命倫理学	コミュニケーション論		
		社会の認識	地域保健と法律行政 国際理解と支援	社会調査法 北海道の医療と社会・経済	社会貢献の方法と実践	
		自然の探求	生命科学概論 自然科学概論 生物学	基礎生化学 物理学		
		健康の探求	健康科学		スポーツ・レクリエーション学 保健医学英語Ⅱ	
		英語科目	保健医学英語Ⅰ 英語Ⅰ 英語Ⅱ 英語Ⅳ			
		総合講義	教養ゼミナールⅠ	教養ゼミナールⅡ	総合学習Ⅰ	総合学習Ⅱ
専門基礎科目	【基礎医学】 人体の構造・機能・動作を学ぶ		人体構造機能学Ⅰ(筋・骨関節系) 人体構造機能学Ⅱ(筋・骨関節系)	人体構造機能学Ⅰ(神経系) 人体構造機能学Ⅰ(内臓・脈管系) 人体構造機能学Ⅱ(神経系) 基礎医学演習 運動学Ⅰ 人間発達学	人体構造機能学Ⅱ(内臓・脈管系) 運動学Ⅱ 老年学	人体構造機能学演習 運動学演習
	【臨床医学】 リハビリテーションの基礎を学ぶ		医学概論 リハビリテーション概論		精神障害基礎論 内部障害基礎論 運動器障害基礎論 中枢神経障害基礎論 発達障害基礎論 臨床心理学	薬理学概論 医用画像解析学概論
	【保健医療福祉とリハビリテーションの理念】 健康増進のための 障害予防リハビリテーションを学ぶ			公衆衛生学 健康増進障害予防概論		福祉介護概論 在宅リハビリテーション学 言語聴覚療法概論 健康増進障害予防演習Ⅰ(検査測定)
専門科目	【基礎作業療法】 療法士としての関わり方の基礎を学ぶ		作業療法概論		作業学概論 作業分析学 日常生活活動学(作業療法)	
	【作業療法評価学】 講義・演習を通し検査方法を学ぶ				作業療法評価学(身体・老年期障害) 作業療法評価学演習Ⅰ(身体・老年期障害) 作業療法評価学(精神障害) 作業療法評価学演習Ⅲ(精神障害) 作業療法評価学(発達障害) 作業療法評価学(高次脳機能障害) 作業療法評価学演習Ⅳ(高次脳機能障害)	作業療法評価学演習Ⅱ(身体・老年期・発達障害)
	【作業療法治療学】 治療までの流れを学習し、実践する					
	【地域作業療法学】 地域に貢献する能力や、 保健・福祉・介護における 支援について学ぶ					
	【作業療法臨床実習】 対象者を前に実践する		臨床見学セミナーⅠ(作業療法) 臨床見学実習Ⅰ(作業療法)		臨床見学セミナーⅡ(作業療法) 臨床見学実習Ⅱ(作業療法)	
	【応用作業療法】 キャリアの育成・卒業研究					
	【応用リハビリテーション】 知識を生活に応用する					

				DP(ディプロマ・ポリシー)とカリキュラムの関連表					
3年次		4年次		DP①	DP②	DP③	DP④	DP⑤	DP⑥
前期	後期	前期	後期						
				○			○	○	
				○	○				
							○		○
						○			
						○			
英語Ⅲ					○				
		総合学習Ⅲ		○				○	
						○	○		
	周術期医療基礎論 医療安全管理学					○			
		健康増進障害予防演習Ⅱ(実践指導)				○			
日常生活活動学(作業療法)演習	社会生活行為学					○	○		
義肢装具学(作業療法)									
義肢装具学(作業療法)演習									
						○	○		
身体障害作業治療学	老年期障害作業治療学			○		○	○		
精神障害作業治療学	高次脳機能障害作業治療学								
発達障害作業治療学	総合事例演習								
	総合実技演習								
生活環境学(作業療法)						○			○
地域作業療法学									
	臨床評価学セミナー(作業療法)	臨床治療学セミナーⅠ(作業療法)		○	○	○	○	○	○
	臨床評価学実習(作業療法)	臨床治療学実習Ⅰ(作業療法)							
		臨床治療学セミナーⅡ(作業療法)							
		臨床治療学実習Ⅱ(作業療法)							
作業療法研究法	作業療法特別セミナーⅡ	作業療法研究法演習(※通年科目)							
作業療法管理学		作業療法特別セミナーⅢ							
作業療法特別セミナーⅠ		特別支援教育概論				○	○	○	
		身体・老年期障害作業治療学特論							
		精神障害作業治療学特論							
		発達障害作業治療学特論							
生活行為向上リハビリテーション論									○

【以下の6. 履修登録～11. 取得資格は、「2020(令和2)年度～2024(令和6)年度入学者」・「2025(令和7)年度以降入学者」と共通】

6. 履修登録

- (1) 履修登録は、学期ごとに所定の期間内で、各自マークシートにより登録してください。登録期間等の詳細については、掲示等で周知します。
- (2) 各年次に配当した授業科目は、原則としてその年次に履修してください。
- (3) 上級年次に配当している授業科目を下級年次の者は履修できません。ただし、上級年次の者が下級年次に配当している授業科目を履修することはできます。
- (4) すでに単位を修得した授業科目を、再度重複して履修することはできません。
- (5) 原則として、同一期の同一曜日、同一授業時間に2科目以上を履修登録することはできません。

7. 在学年限

8年を超えて在学することはできません。

8. 休学期間

- (1) 休学期間は、1年以内とします。ただし、特別の理由がある場合は、1年を限度として休学期間の延長を認めます。
- (2) 休学期間は、通算して4年を超えることはできません。
- (3) 休学期間は、前記7.の在学年限には算入しません。

9. 卒業認定方法

本学に4年以上在学して、前記2.の卒業要件（「2020(令和2)年度～2024(令和6)年度入学者」はP11～12、「2025(令和7)年度以降入学者」はP25～26参照）に従って所定の単位を授与された者について、教務委員会で審議の上、学長は教授会の意見を聴いて卒業を認定します。

10. 学位の授与

卒業を認定した者には、次の学位を授与します。

- (1) リハビリテーション学科 理学療法学専攻 学士 (理学療法学)
- (2) リハビリテーション学科 作業療法学専攻 学士 (作業療法学)

11. 取得資格

本学健康科学部リハビリテーション学科、理学療法学専攻および作業療法学専攻は、「理学療法士及び作業療法士法」第11条第1号及び第12条第1号に定める学校として指定されており、卒業後は、理学療法士又は作業療法士の国家試験を受験する資格が付与されます。

Ⅲ. 試験について

1. 試験の種類

試験には、定期試験、追試験および再試験があります。

(1) 定期試験

- ① 学期の一定期間内に試験を実施します。ただし、期間外（授業等）で行う場合には授業担当教員の指示に従ってください。
- ② 試験期間および試験時間割については、掲示でお知らせしますので確認してください。

(2) 追試験

- ① 次の各号の理由により定期試験を受験できなかった学生に対し、所定の手続きを経た場合、別に追試験を行うことがあります。
 - (ア) 本人の重篤な病気又は怪我（入院又はこれに準ずる場合に限る）
 - (イ) 公共交通機関の遅延
 - (ウ) 忌引き（三親等以内の親族（三親等は曾祖父母に限る）の死亡とし、法事は含めない。）
 - (エ) 災害（台風、水害、雪害、火災等）
 - (オ) その他、本学がやむを得ないと認めたもの
- ② 追試験を受けようとする学生は、原則として、欠席した試験が行われた日の翌日から起算して3日以内に、その試験に欠席した理由を証明する書類を添付して、「追試験願」を学務課に提出してください。
- ③ 追試験の日程は、定期試験前に提示した追試験期間内で実施します。
- ④ 追試験の成績評価は、原則として定期試験と同様に評価されます。

(3) 再試験

- ① 再試験は、定期試験及び追試験の成績が不合格のため、所定の単位を修得できなかった場合、並びに定期試験及び追試験を受験できなかった場合に、本人の願い出によって行われます。
- ② 再試験を希望する者は、成績評価の発表後、本学が指定した期間内に受験料（有料：1科目2,000円）を添えて「再試験願」を学務課に提出してください。
- ③ 再試験の日程は、掲示でお知らせします。
- ④ 再試験で合格した場合の成績評価は、C評価とします。

2. 受験資格

各授業科目の時間数の3分の2以上出席しなければ、試験を受けることはできません。授業時間数が8回の場合は3回、15回の場合では6回欠席すると受験はできなくなります。授業の出欠管理は、必ず学生の自己責任で行ってください。

3. 受験上の注意

- (1) 試験に際しては、学生証を机上に提示してください。学生証を忘れた場合は、学務課で「仮学生証」の発行(有料：300円)を受けてください。学生証又は仮学生証がなければ受験できません。
- (2) 試験開始後30分以上遅刻した場合は、入室することができません。また、試験開始後30分以内は退出することができません。
- (3) 学生証、時計および筆記具以外のものを机上に置くことはできません。これ以外の所持品は(音の出る機器は電源を切ったうえで)鞆の中に入れて座席の下に置いてください。
- (4) 携帯電話等の電子機器を時計代わりに机上に置くことはできません。
- (5) 受験中は監督者の指示に従ってください。指示に従わないときは退出を命じます。
- (6) 受験中は静粛を保ち、退出後も他の受験者の迷惑にならないよう静かに行動してください。
- (7) 配布された答案用紙等は、回収しない問題用紙を除き、すべて提出しなければなりません。

4. 不正行為が発覚した場合

- (1) 試験監督者は、学生の受験を直ちに停止させ、当該不正行為の事実関係を確認し、問題用紙、答案用紙及び証拠品を没収します。
- (2) 当該試験及び当該期間の全科目を「無効」とし、さらに再試験の受験も不可とします。
- (3) 学生の懲戒手続きに関する内規で定める懲戒諮問委員会で、懲戒内容を審議します。

5. 試験における不正行為

- (1) 他の者が受験者に代わって受験又は受験者が他の者を代わりに受験させること。
- (2) カンニングペーパー又はこれに類するものを使用すること。
- (3) 持ち込み不可とされているものを使用すること。
- (4) 所持品、机上、身体等にメモを書き込んでおくこと。
- (5) 答案を相互に交換し、答案を作成すること。
- (6) 他の受験者の答案を見たり又は他の受験者に答案を見せたりすること。
- (7) 携帯電話等の通信機器を利用して、試験時間中に交信すること。また、それらを目の届く場所に置くこと。
- (8) 監督者が明らかに不正行為に類すると判断する行為を受験者が行うこと。
- (9) その他、前各号に類すると認める行為。
- (10) 試験には、定期試験のほか、小テストや中間試験等も含む。

6. レポート等における不正行為

- (1) 他人の著作物を盗用すること。
- (2) 実験や調査結果等のデータを捏造又は偽造すること。
- (3) 他人のレポート並びに著作物を、自分のものとして提出すること。
- (4) 他人のレポート並びに著作物から、適切な出典引用処理を行わずに流用すること。
- (5) 他人と同一の文書表現でレポート等を作成し、提出すること。
- (6) 前各号に掲げる行為を幫助すること。
- (7) その他、レポート等の公正な成績評価を妨げると認める行為。

Ⅳ. 補習について

1. (目的)

再試験の成績により、当該授業科目の到達目標に達していないと認められる学生に対し、必要な補充的学修の機会を提供することにより、学修内容の理解を補い、単位修得及び円滑な進級を図ることを目的とする。

2. (補習の対象者)

- (1) 補習の対象者は、1～3学年に実施する再試験を受験した上で結果が基準に達しなかった者とする。なお、原則として当該学期に開講された科目のうち4科目までの学生とし、5科目以上基準に達しない科目がある学生の補習は認めない。
- (2) 前項の規定にかかわらず、教育上特に必要があると専攻会議又は教務委員会が認めた場合は、この限りではない。

3. (補習の実施方法)

- (1) 補習は、講義、演習、課題学修、確認試験、その他教育上必要と認められる方法により実施する。
- (2) 補習の標準的な実施時間数は、原則として1科目5コマを基本とする。ただし、当該科目の単位数、教育内容及び学生の到達状況を勘案し、科目担当者の判断により、これを増加することができる。
- (3) 補習の具体的な内容、方法及び時間数は、科目担当者が定める。
- (4) 補習対象者は、本学が指定する補習計画、出席要件及び評価方法に従わなければならない。

4. (補習期間)

補習は、当該年度のエデュケーション計画に定める補習期間に実施する。ただし、教育上特に必要があると認められる場合は、この限りではない。

5. (評価及び単位認定)

- (1) 補習の修了判定は、確認試験、課題の達成状況及び補習への取り組み状況等を総合的に勘案して行うが、次に掲げる要件をすべて満たすことを原則とする。
 - ①補習は原則としてすべて出席すること。
 - ②確認試験又は課題評価において、科目担当者が定める到達基準に達していること。
- (2) 評価方法及び到達基準の詳細は、科目担当者があらかじめ明示するものとする。
- (3) 前項の判定により所定の基準に達したと認められた場合は、当該授業科目を修了したものとし、単位を認定する。
- (4) 補習で合格した場合の成績評価は、「C」評価とする。

6. (補習後の学修支援)

補習により単位を認定された学生に対し、学修内容の定着を図るため、必要に応じて別に定める学修支援プログラムへの参加を義務付けることができる。

7. (補習履歴の管理)

補習の受講及び修了に関する事項は、学修記録として適切に管理し、必要に応じて成績証明書、その他の書類に記載することがある。

附則 (経過措置)

- 1 本規定の施行にあたり、令和8年度の措置は、学修状況の把握及び補習制度の適切な運用方法を検証するための試行的運用と位置付ける。
- 2 本経過措置の結果については、当該年度終了後に検証を行い、必要に応じて制度の見直しを行うものとする。

V. 成績評価について

1. 成績評価の方法

- (1) 授業科目の成績は、それぞれの科目の評価方法により判定します。
- (2) 成績の評価は、「S」～「D」に区分し、「D」を不合格とします。
- (3) 授業科目の単位は、当該科目が終講し、次の表の学習成果の質に応じて評価した上で、「S」から「C」の合格判定を得たときに認定されます。

評価	学修成果の質
S	授業科目の到達目標のすべての面で <u>秀逸</u> な学修成果をあげた。
A	授業科目の到達目標のすべての面で <u>優秀</u> な学修成果をあげた。
B	授業科目の到達目標のすべての面で <u>良好</u> な学修成果をあげた。
C	授業科目の到達目標のほとんどの面で合格となる最低限の学修成果であったが、良好な面がいくつかあった。
D	授業科目の到達目標のほとんどまたはすべての面で合格となる最低限の学修成果はなかった。

2. GPA制度

本学では、成績を数値化することで、学習効果を客観的に把握するために、GPA (Grade Point Average) 制度を導入しています。修得単位数という「量」だけではなく、学習状況の「質」を判断できる指標を提供することにより、学生の学習意欲の向上や学習の計画などの自己管理に資することを目的としています。

また、学生には学習状況を自覚させ主体的な学びを促すため、「学期GPA」または「通算GPA」が1.5未満の学生を修学指導対象学生とし、面談により個別指導を行います。

詳しくはホームページの「在学生・保護者の方」→「学生生活について」→「GPA制度の導入について」をご覧ください。

評価区分と得た成績の点数に対するGP (グレード・ポイント) は次のとおりです。

点 数	評 価	判 定	G P
100点～90点	S	合格	4
89点～80点	A	合格	3
79点～70点	B	合格	2
69点～60点	C	合格	1
59点以下	D	不合格	0

※ 再試験で合格の評価は、点数にかかわらずすべて「C」評価とします。

3. G P Aの対象外

- (1) 編入学又は転入学における単位認定科目
- (2) 本学入学前に修得した単位認定科目
- (3) 他大学等との単位互換等で修得した科目
- (4) 臨床見学実習(理学療法)、臨床評価学実習(理学療法)、臨床治療学実習Ⅰ(理学療法)、臨床治療学実習Ⅱ(理学療法)、臨床見学実習Ⅰ(作業療法)、臨床見学実習Ⅱ(作業療法)、臨床評価学実習(作業療法)、臨床治療学実習Ⅰ(作業療法)、臨床治療学実習Ⅱ(作業療法)

4. G P Aの算出方法

(評価を受けた授業科目のG P ×その科目の単位数) の合計／評価を受けた科目の単位数の合計

※ G P Aの最高値は4. 0 0となります。

5. G P Aの算出例

授業科目	評 価	G P (a)	単位数(b)	a×b
〇〇学	B	2	2	4
□□概論	S	4	2	8
△△基礎論	A	3	1	3
◎◎演習	C	1	1	1
◇◇学(選択)	D	0	1	0
計			7	1 6

分子：(評価を受けた授業科目のG P (a) ×その科目の単位数 (b)) の合計＝1 6

分母：評価を受けた科目の単位数の合計＝7

G P A＝1 6／7＝2. 2 9 (小数点第3位を四捨五入)

※ S評価が多いとG P Aは高くなり、逆にC評価が多くなるとG P Aは低くなります。特にD評価があるとG P Aに大きな影響があることに注意してください。

6. 成績の通知

各期終了後、本人には授業科目別の成績を掲示するほか、学費負担者には、評価区分、学期G P A及び通算G P Aを記載した「学業成績記録」を郵送で通知します。



未来を拓く医療人をめざして

北海道千歳リハビリテーション大学

Hokkaido Chitose College of Rehabilitation